

2026年3月期 第2四半期 決算説明会

扶桑化学工業株式会社

2025年11月12日

東証プライム (4368)



I. 2026年3月期 第2四半期決算概要

取締役 伊藤 裕之

II. 事業の概要

代表取締役社長 杉田 真一

- ライフサイエンス事業

- 電子材料および機能性化学品事業

III. 2026年3月期 業績予想

代表取締役社長 杉田 真一

IV. Q&A

I. 2026年3月期 第2四半期決算概要

FUSO CHEMICAL

2026年3月期 第2四半期決算概要



(単位：億円)	当期実績	前年同期比			期初計画比		
		前期実績	増減額	増減率	公表計画	増減額	増減率
売上高	377.0	347.5	+29.4	+8.5%↗	363.0	+14.0	+3.9%
営業利益	97.4	81.4	+16.0	+19.7%↗	79.0	+18.4	+23.4%
経常利益	98.0	79.4	+18.5	+23.4%↗	76.5	+21.5	+28.2%
当期純利益	68.7	56.0	+12.7	+22.7%↗	52.5	+16.2	+31.0%
償却前営業利益	143.2	118.4	+24.8	+20.9%↗	127.0	+16.2	+12.8%
1株当たり 当期純利益	195.1円	159.0円	+36.0円	+22.6%↗	148.9円	+46.2円	+31.0%

売上高、営業利益 半期決算で過去最高を更新

セグメント別売上高・営業利益【前期比】



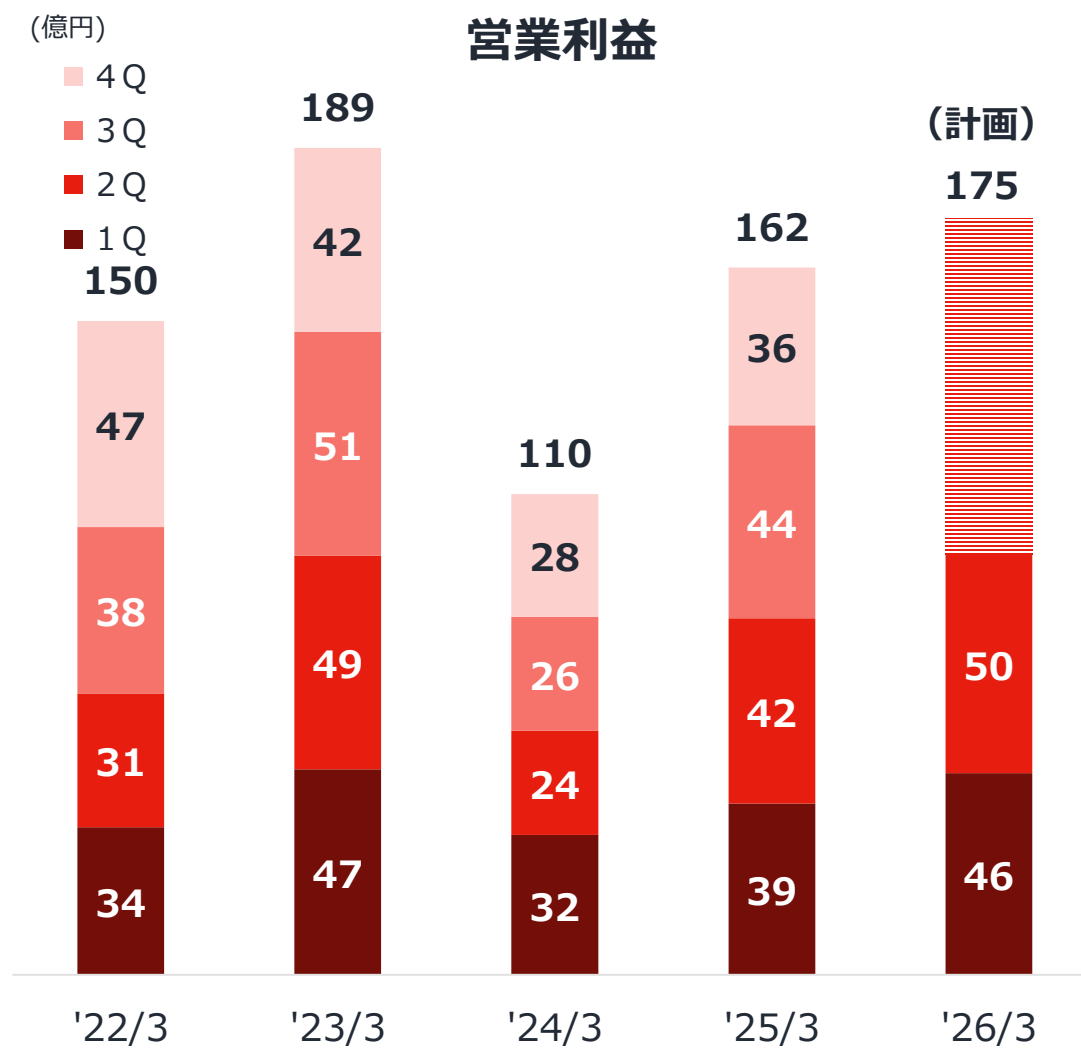
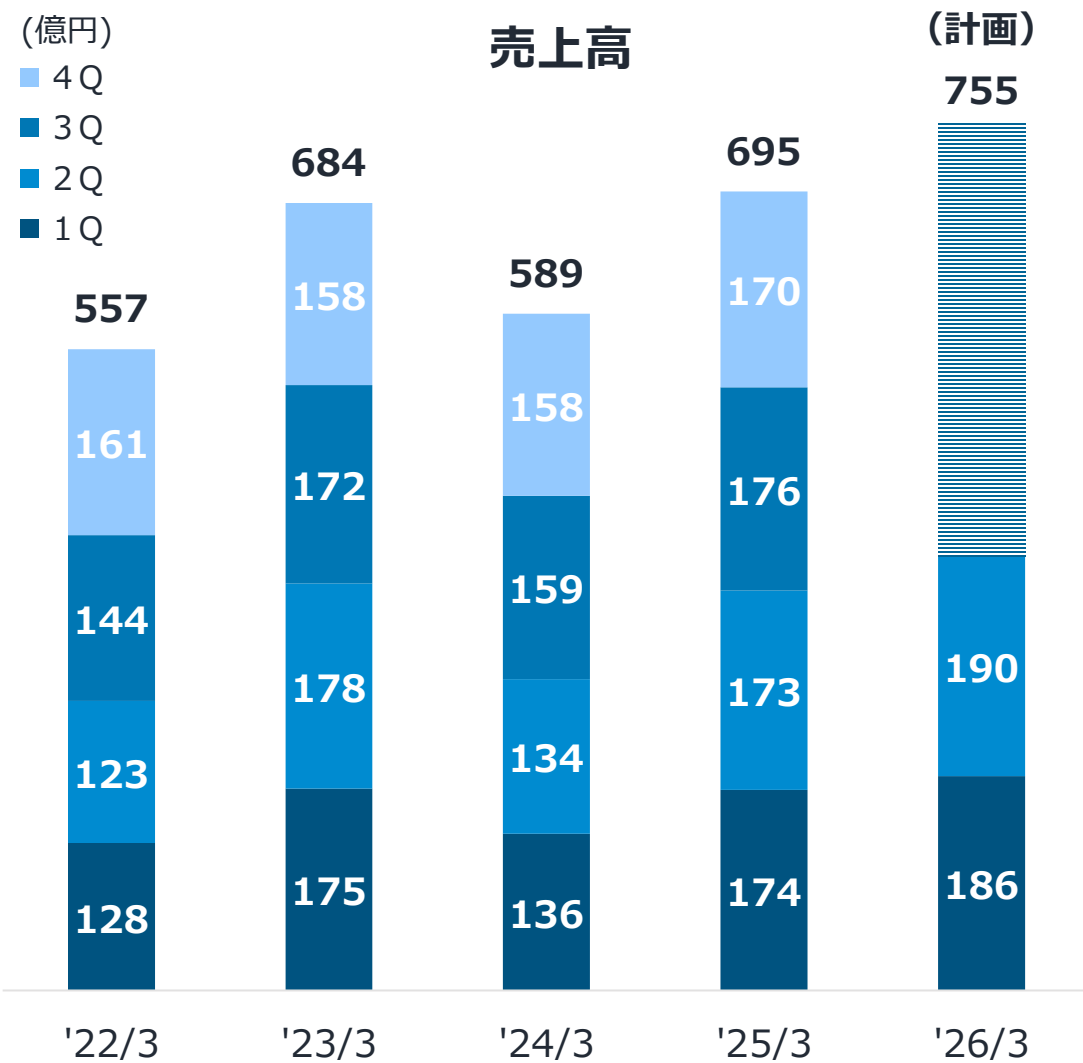
(単位：億円)		当期実績	前年同期比		
			前期実績	増減額	増減率
■ ライフサイエンス事業	売上高	177.8	186.6	△8.8	△4.7% ↓
	営業利益	25.1	27.4	△2.2	△8.2% ↓
■ 電子材料および 機能性化学品事業	売上高	199.2	160.8	+38.3	+23.8% ↑
	営業利益	84.2	65.1	+19.0	+29.3% ↑
(調整額)		△11.9	△11.1	△0.8	—
営業利益（全社）		97.4	81.4	+16.0	+19.7% ↑

2026年3月期 上期業績



(単位：億円)	'26/3月期 1Q	前年同期比		'26/3月期 2Q	前年同期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	186.5	+12.2	+7.0%	190.4	+17.2	+9.9%
営業利益	46.9	+7.8	+20.0%	50.5	+8.1	+19.3%
経常利益	45.3	+2.4	+5.6%	52.7	+16.1	+44.2%
四半期純利益	31.0	+2.2	+7.6%	37.7	+10.5	+38.6%
償却前営業利益	68.9	+11.6	+20.4%	74.3	+13.1	+21.5%
1株当たり 四半期純利益	88.0 円	+6.2 円		107.0 円	+29.7 円	

四半期別業績推移



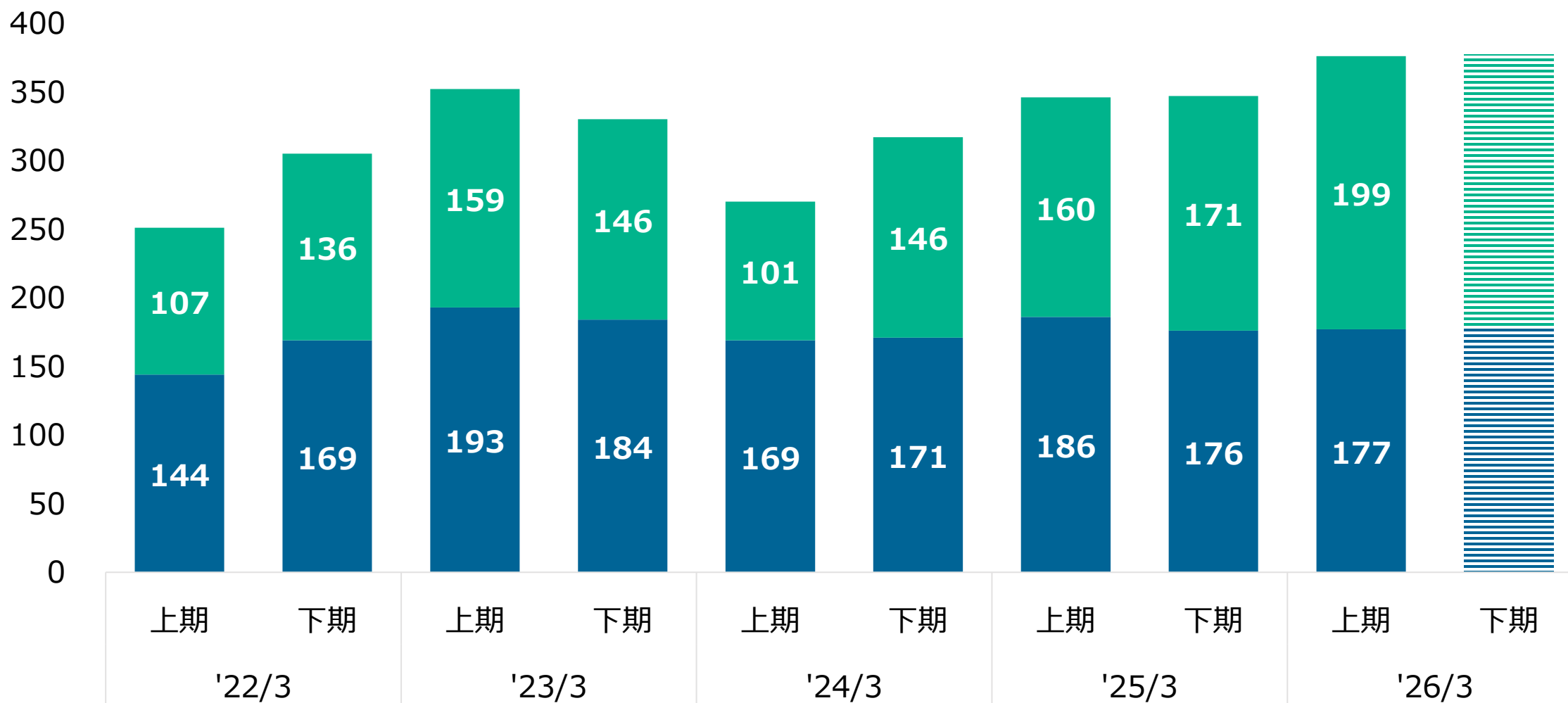


セグメント別【売上高】

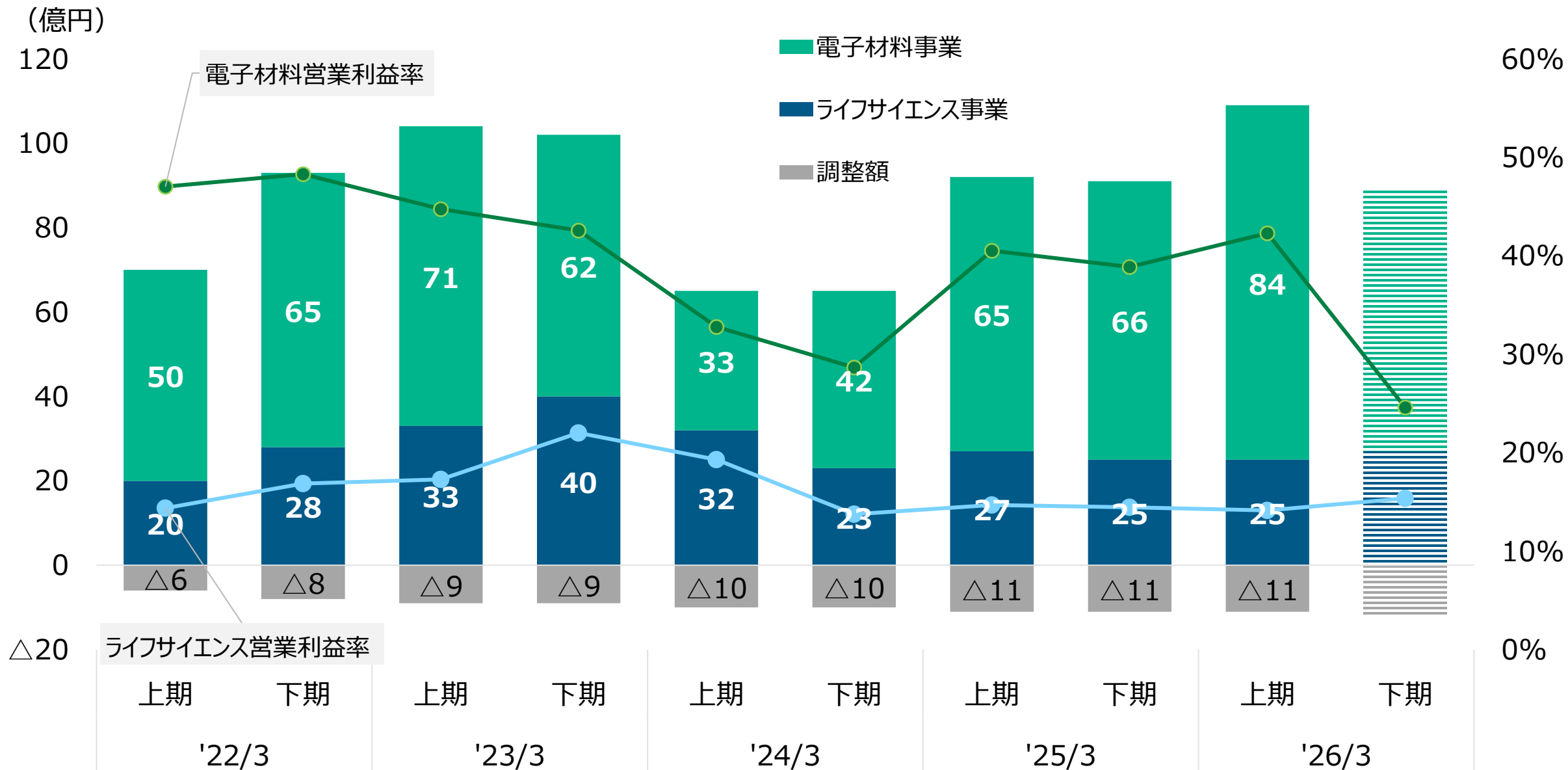


(億円)

- 電子材料事業
- ライフサイエンス事業



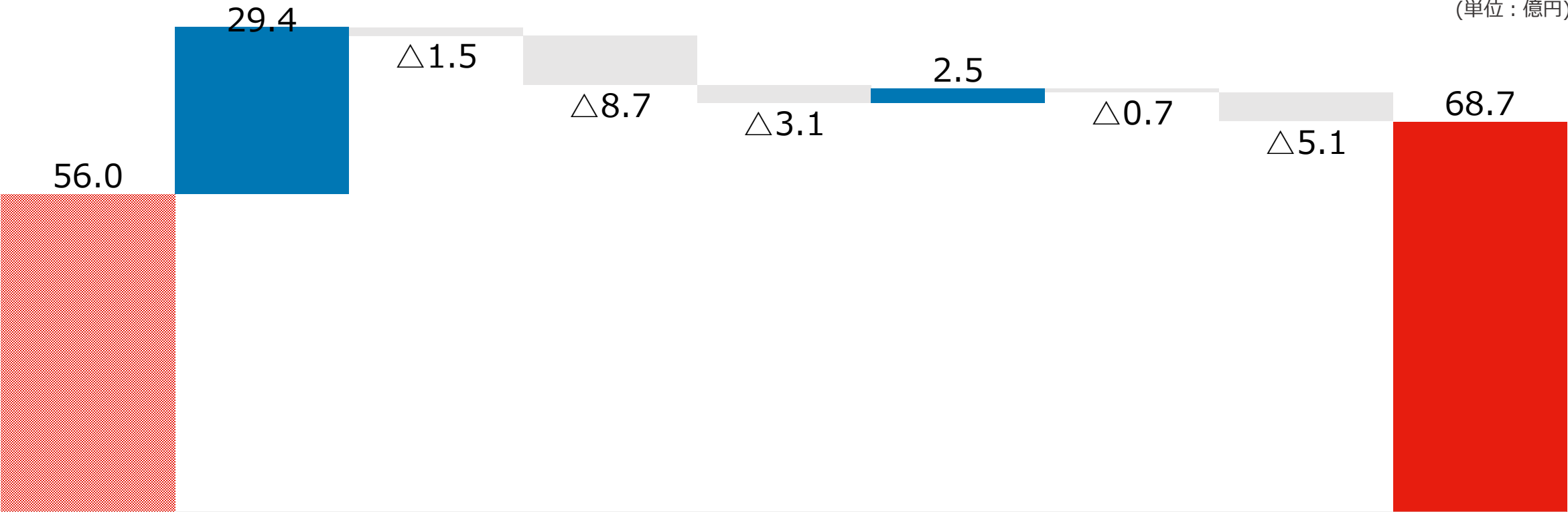
セグメント別【営業利益】



2026年3月期 第2四半期 当期純利益増減要因



(単位：億円)



2025年3月期
上期
当期純利益

売上高

売上原価

減価償却費
をのぞく

減価償却費

販管費

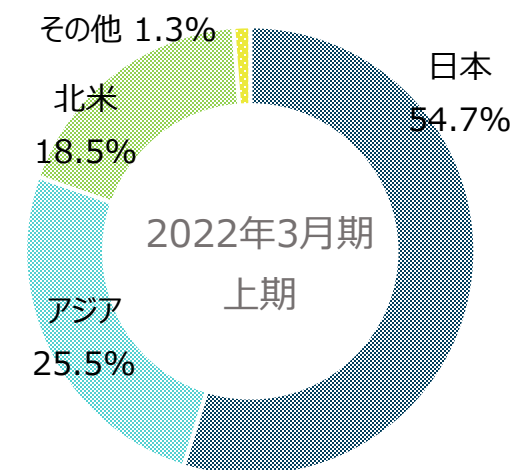
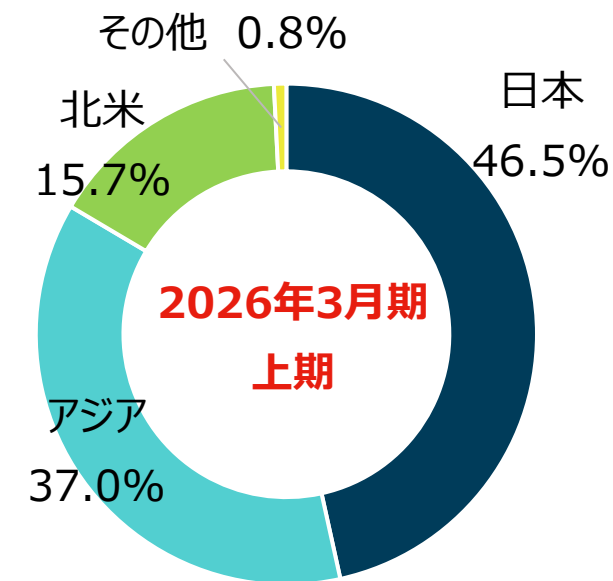
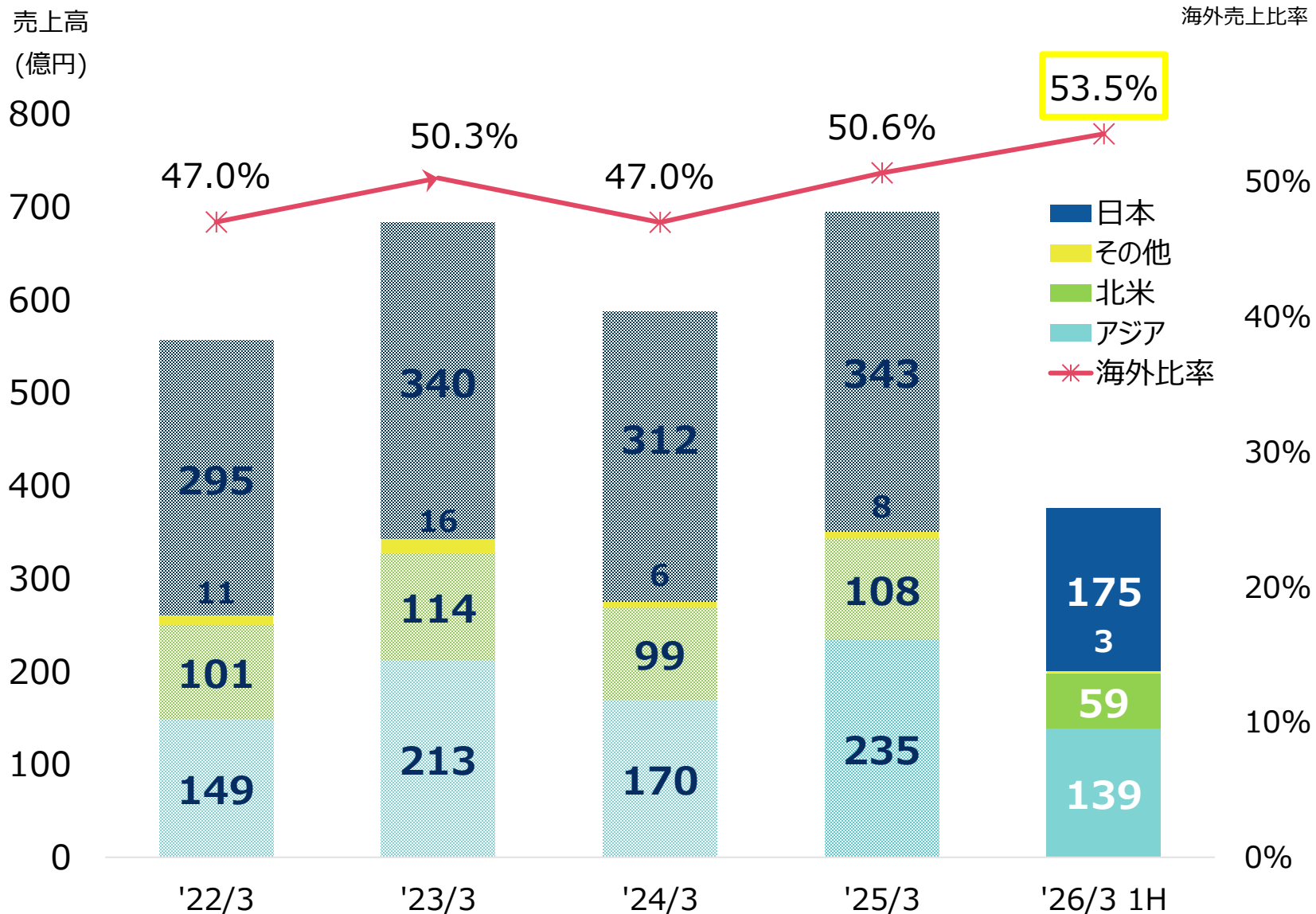
営業外損益

特別損益

法人税等

2026年3月期
上期
当期純利益

海外売上高推移



資産・負債・純資産



(億円)

1,600

1,400

1,200

1,000

800

600

400

200

0

流動資産

固定資産

1,415.0

1,444.4

670.5

701.0

744.4

743.4

'25/3期末

'26/3上期末

流動資産 (前期末比 +30億)

- 現金及び預金 +21億
- 受取手形及び売掛金 +12億

固定資産 (前期末比 △1億)

- 建物および構築物 △5億
- 機械装置および運搬具 △7億
- 建設仮勘定 +14億
- 繰延税金資産 △1億

(億円)

1,600

1,400

1,200

1,000

800

600

400

200

0

流動負債

固定負債

純資産

1,415.0

1,444.4

184.8

177.1

189.6

169.4

1,040.4

1,097.8

'25/3期末

'26/3上期末

流動負債 (前期末比 △7億)

- 1年内返済予定の長期借入金 +9億
- 設備関係未払金 △24億
- 未払法人税等 +8億

固定負債 (前期末比 △20億)

- 長期借入金 △20億

純資産 (前期末比 +57億)

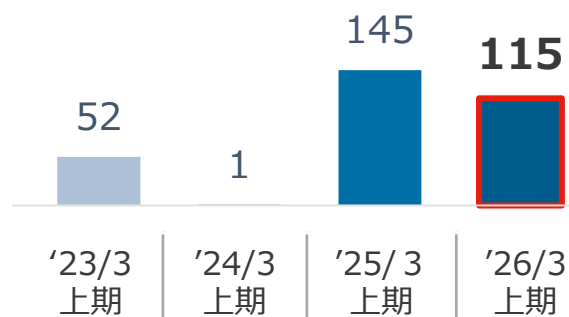
- 利益剰余金 +55億
- 為替換算調整勘定 +1億

キャッシュフロー



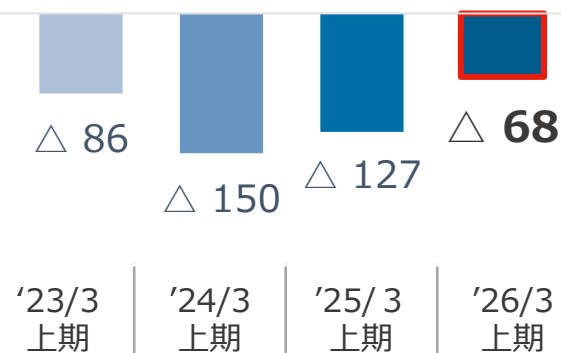
営業キャッシュフロー

(単位：億円)



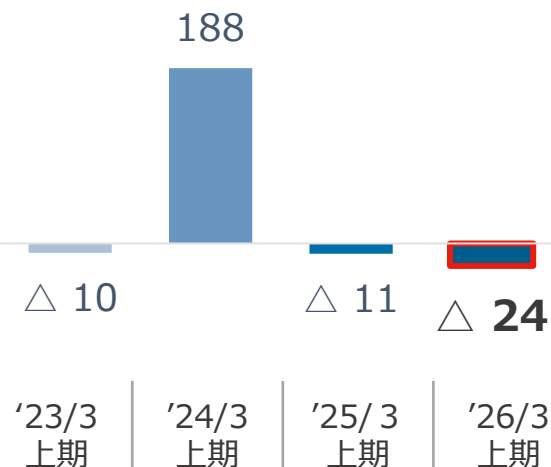
投資キャッシュフロー

(単位：億円)



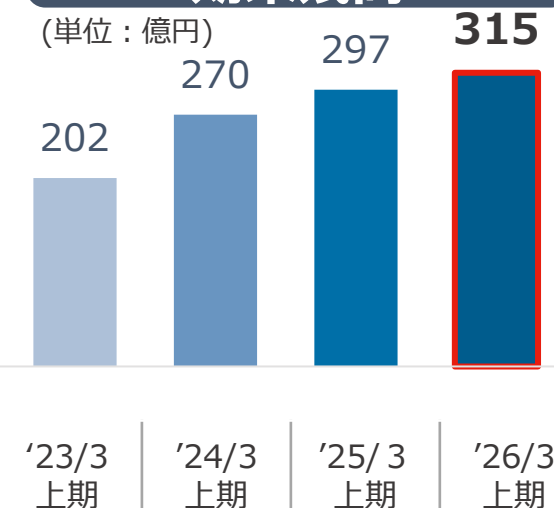
財務キャッシュフロー

(単位：億円)



現金及び現金同等物 期末残高

(単位：億円)



営業活動によるキャッシュフロー

■ 税金等調整前中間純利益	+97
■ 減価償却費	+45
■ 売上債権の増減額	△12

投資活動によるキャッシュフロー

■ 有形固定資産の取得による支出	△64
■ 無形固定資産の取得による支出	△3

財務活動によるキャッシュフロー

■ 長期借入金の返済による支出	△11
■ 配当金の支払額	△13

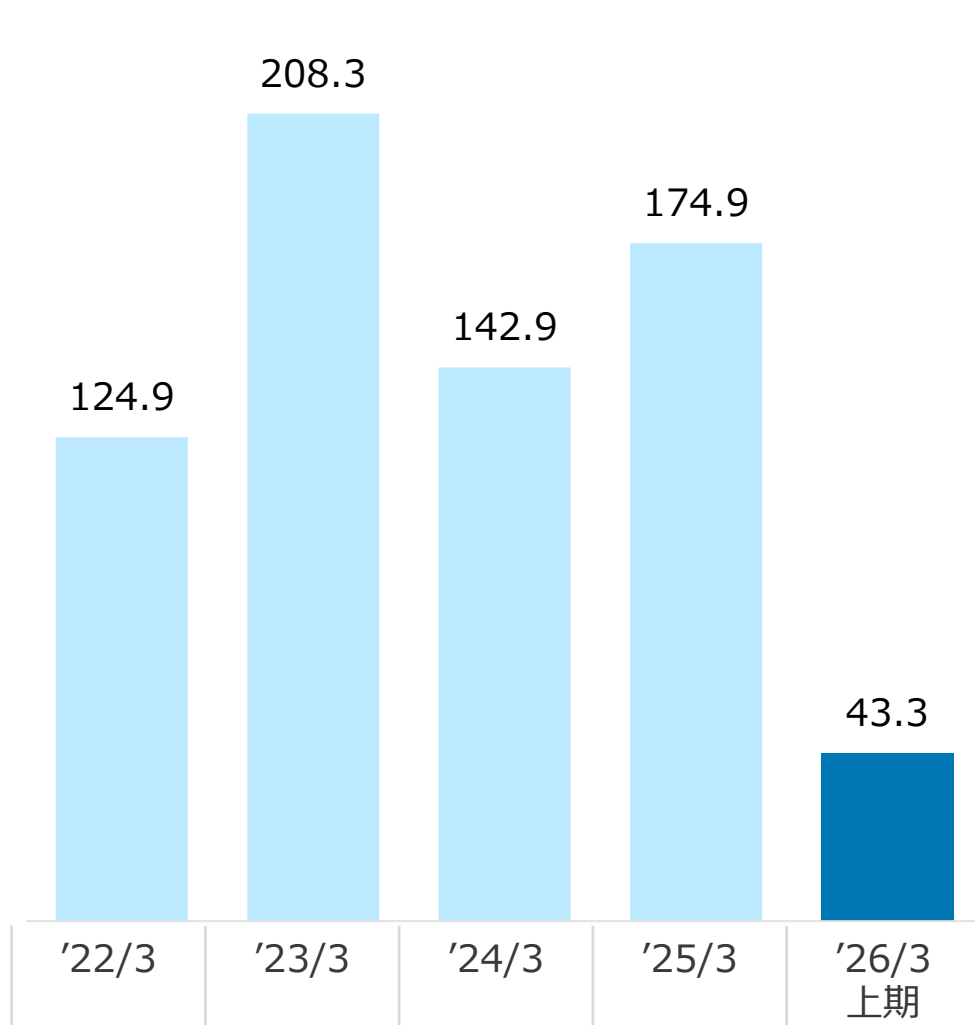
(単位：億円)

設備投資額・減価償却費・研究開発費



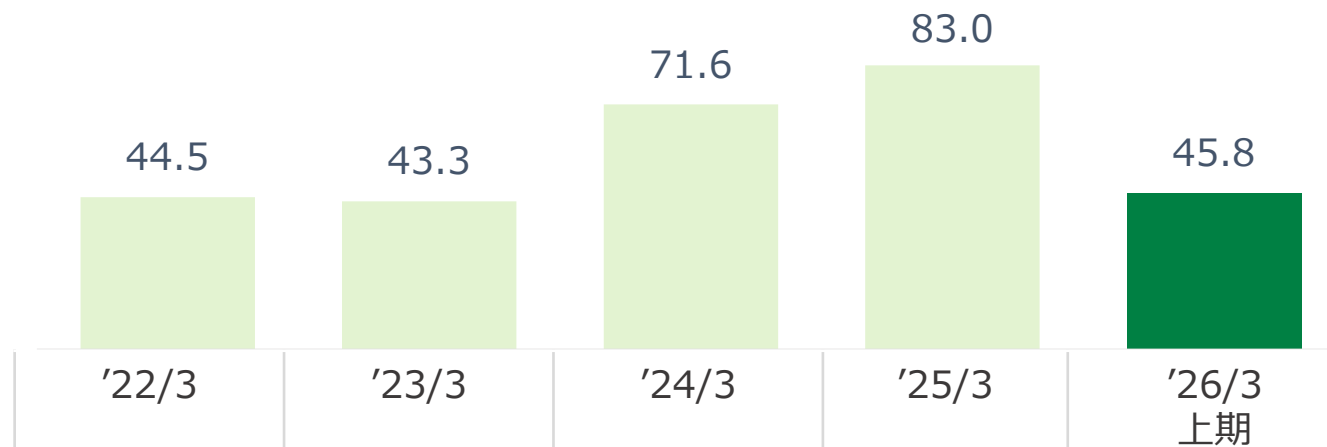
設備投資額

(単位：億円)



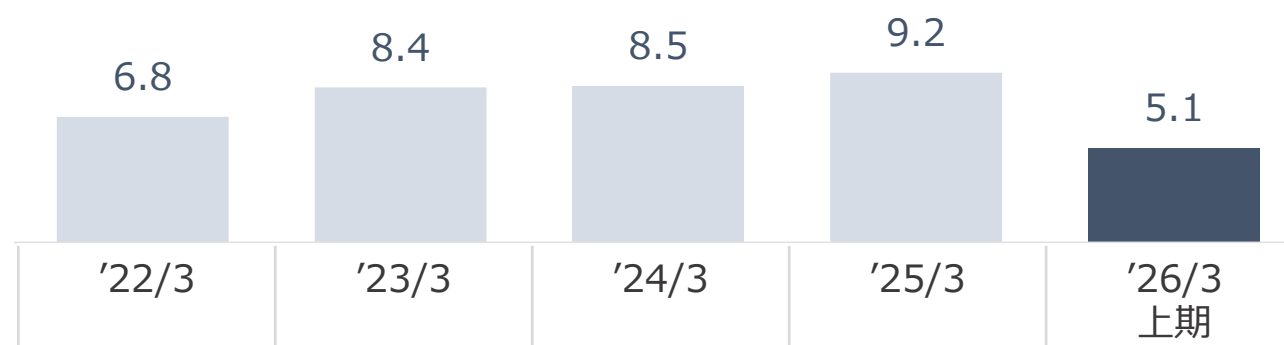
減価償却費(のれん償却含む)

(単位：億円)



研究開発費

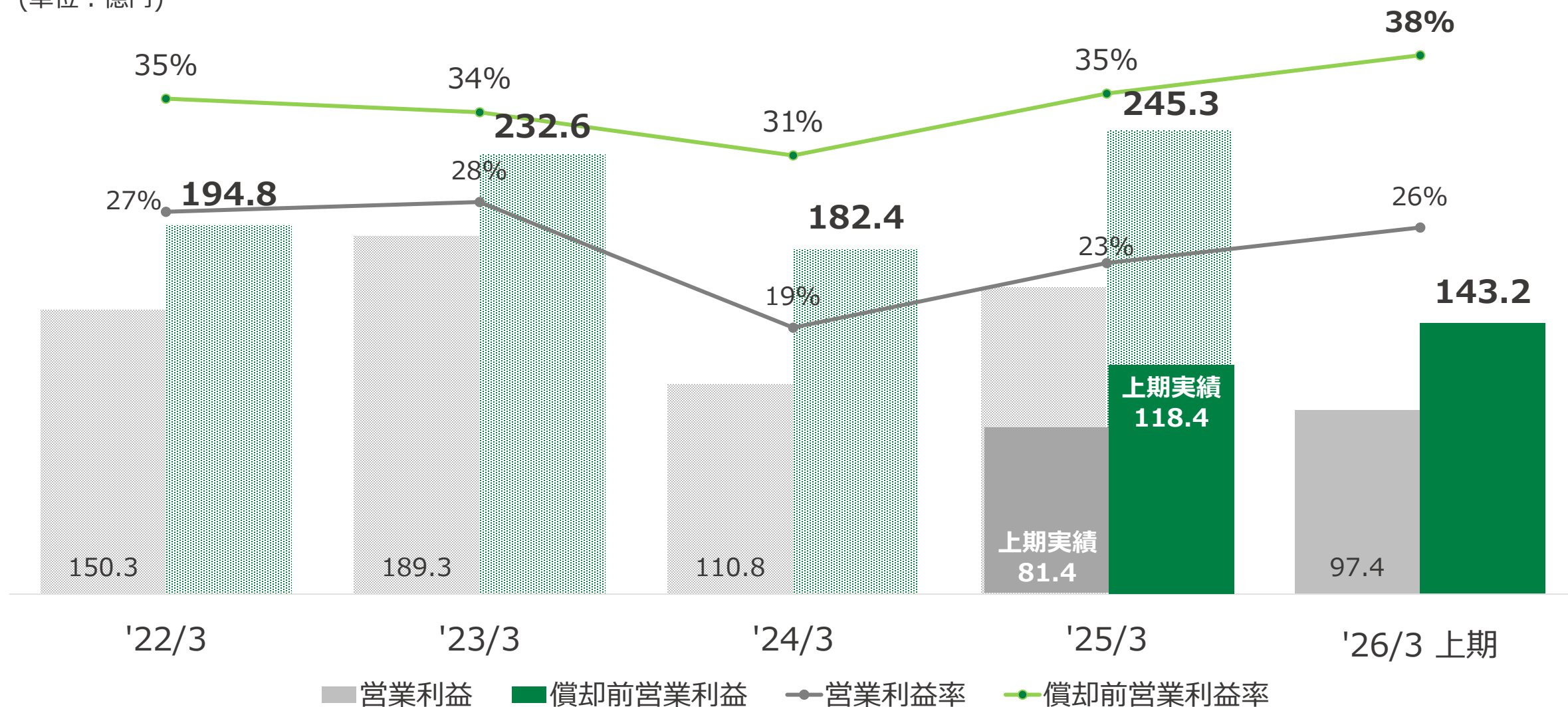
(単位：億円)



償却前営業利益



(単位：億円)



II. 事業の概要

ライフサイエンス事業部

FUSO CHEMICAL

事業内容



ライフサイエンス事業



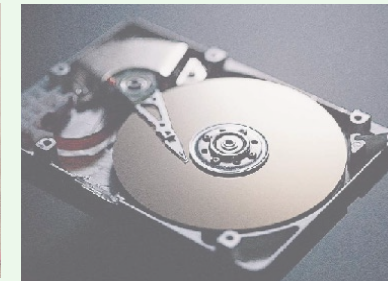
- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- フマル酸類
- ビタミンC類
- 食品添加物製剤類
- その他果実酸類
(コハク酸類、乳酸類、酒石酸類)
- 無水マレイン酸類
- 高純度有機酸



電子材料および 機能性化学品事業



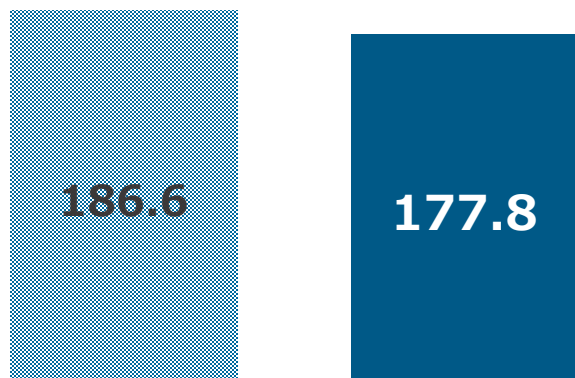
- 電子材料
 - ・ 超高純度コロイダルシリカ
- 機能性化学品
 - ・ 高純度オルガノシリカゾル
 - ・ シリカナノパウダー
 - ・ アルキルシリケート



ライフサイエンス事業 上期概況



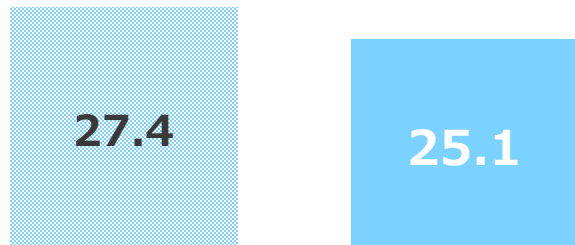
売上高



前期

当期

営業利益



前期

当期

売上高 増減要因

+	リンゴ酸（国内）	販売数量増、値上げ効果
-	為替	前期比5%の円高の影響（輸出・海外子会社）
	輸出	リンゴ酸価格下落（2割）
	販売物量	無水マレイン酸、ビタミン類での物量減
	ビタミンC類	市況価格低下による価格調整
	海外子会社	アメリカ：グルコン酸類価格下落（1割）

営業利益 増減要因

+	リンゴ酸（国内）	値上げ浸透（前年度下期 実施）
-	為替	円高により、仕入価格5%ダウン
	原材料	ベンゼン価格安
	価格改定	フマル酸：シェア確保のため大幅価格対応
	海外子会社	アメリカ：グルコン酸類価格下落
	輸出	物量増を上回る価格対応
	為替	円高により海外子会社利益減

I. 海外ビジネス拡大

- リンゴ酸
- 海外子会社

II. 国内シェア確保

- 果実酸
- ビタミンC類

III. 新生産体制・効率化

- 鹿島事業所・大阪工場

IV. FFAビジネスの面拡大

- 営業開発強化・グローバル展開



I. 海外ビジネス拡大_リンゴ酸



2025年度計画

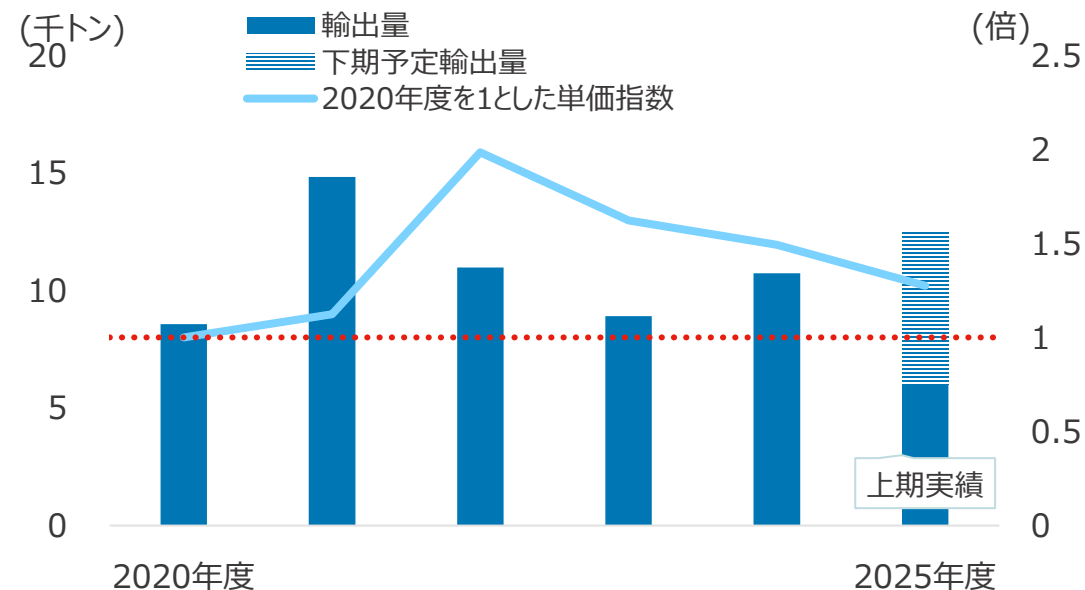
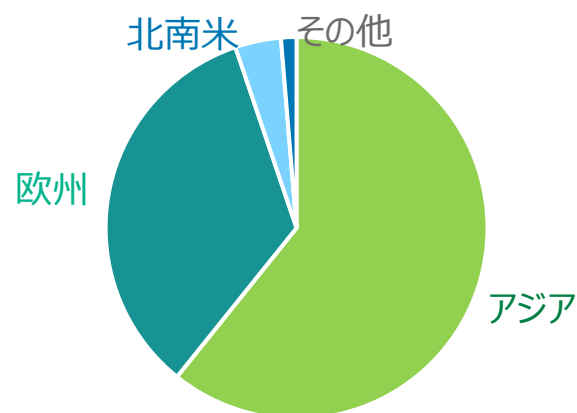
- 前年比25%以上の数量増を目指す
- アジア市場でのシェア拡大、需要回復による数量増
- エジプト、ポルトガル、北欧、メキシコなど新規取引先の販売強化
- 操業度アップによる、コストダウン

2025年度上期実績

- シェア拡大中、数量5%増（前期比）
- 当期計画進捗未達
- ポルトガルで新規顧客獲得
- 時間当たりの生産量増加に向けた取り組み
コストダウンにより海外市場での競争力強化



【海外地域別販売実績】



I. 海外ビジネス拡大_海外子会社



2025年度計画

2025年度上期実績

USA

- ・ 拡大したキャパの活用
- ・ 安定した製造供給体制
- ・ 米国内でのシェア拡大、3%物量増
- ・ 営業、顧客とのアライアンス強化

中国

- ・ 顧客ニーズに対応した新製品上市
- ・ 積極的な顧客訪問、展示会出展、情報発信
- ・ FFA製造ライン拡充

タイ

- ・ 有機酸販売強化
- ・ ベトナム市場での果実酸販売増
- ・ 機能性製品、コート果実酸の拡売

- ・ 新主発酵槽を活用した交互運転開始
- ・ 設備投資計画(新たな結晶缶の設置等)の検討
- ・ 販売物量 前期比5%増
- ・ 農業用途への営業強化

- ・ 米飯向け品質改良剤ほか：3製品上市
- ・ 展示会を通じた新規案件200件
- ・ 製造ライン：FFA生産能力約1.5倍に増強

- ・ 飲料用途：大口先向け不振
- ・ リンゴ酸：前期比3割増、計画比1割増
- ・ 飲料用途：ヘルシャスZn(グルコン酸亜鉛)好調



PMP Fermentation Products, Inc.



青島扶桑精製加工有限公司



FUSO(THAILAND)CO., LTD.

Ⅱ. 国内シェア確保



2025年度計画

リンゴ酸

- ・タイムリーな価格改定と市場シェアの最適化
- ・粗利の最大化を目指す
- ・積極的な新規用途開拓（飼料、農薬用途など）
- ・価格改定の浸透：前期比5%アップ
- ・粗利改善：稼働率アップ、原料価格安
- ・販売物量：前期比1割増

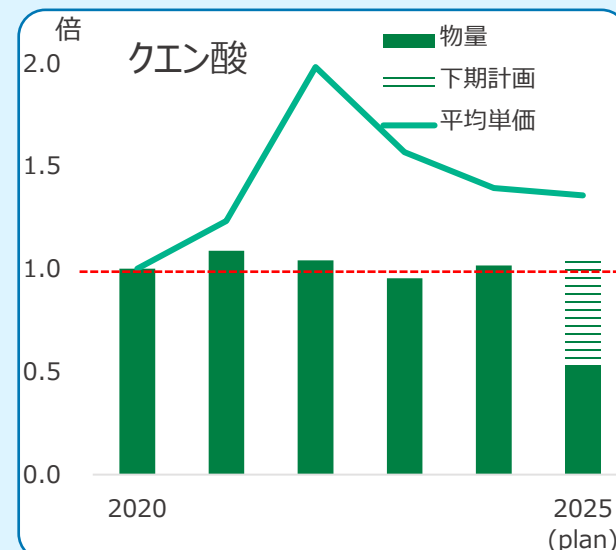
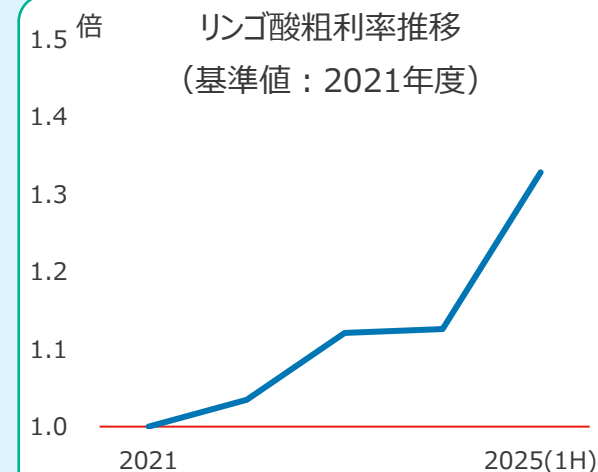
クエン酸

- ・前年比5%以上の物量増を目指す
- ・大手飲料メーカー入札案件を確実に獲得
- ・顧客ごとに異なる扶桑品の競争優位性を分析・把握し、利益率の向上を図る
- ・販売物量：前期比5%増 大手家庭用品
- ・次回入札に向けて折衝中
- ・販売価格：計画比軟調

グルコン酸

- ・塩類（銅、亜鉛）販売量4割増
- ・メッキ：需要回復見込
- ・グルコン酸塩類（健康食品）：計画比3割増
- ・メッキ：復調
- ・市況価格低下により販売単価下落

2025年度上期実績



Ⅱ. 国内シェア確保



2025年度計画

2025年度上期実績

ビタミンC

- 需要増に対応できる安定的な供給体制構築
- メインユーザーへの販売増、その他用途の需要取り込み
- リソースを活かした一般用/医療用医薬品へ提案促進

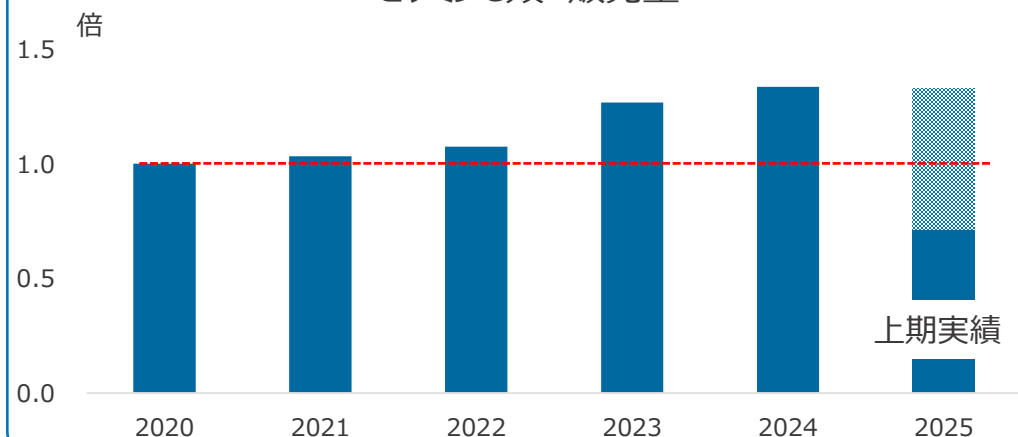
- 飲料用途物量：大手顧客向け物量減、前期比5%減
- 新規顧客獲得：サブリ向けに受注

フマル酸

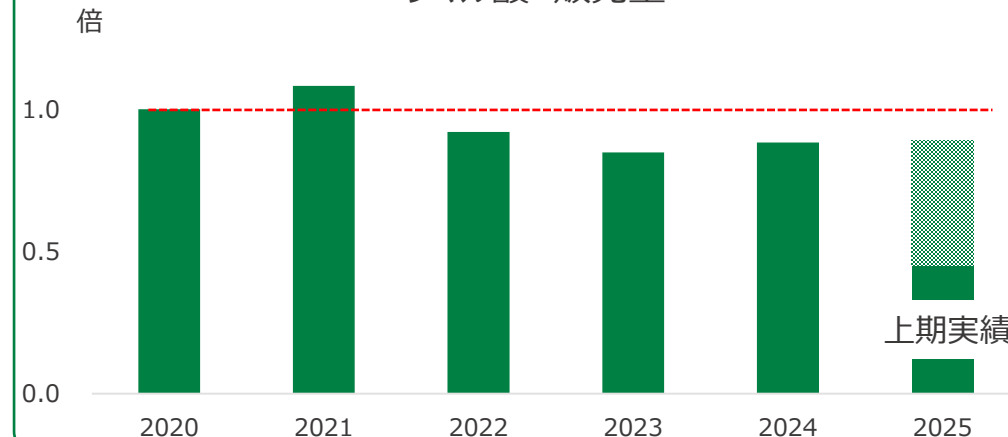
- 入浴剤 大口顧客でのシェア確保
- 製紙、不飽和ポリエステル、塗料等需要が低調

- 大口顧客：大幅価格対応にて物量確保、前期比1割増
- 海外向け販路開拓中

ビタミンC類 販売量



フマル酸 販売量



Ⅲ. 新生産体制・効率化



安全・環境対応／安定操業／保全体制の充実

大阪工場



鹿島事業所



2025年度計画

- 耐震補強工事の実施
- 新事務所棟の建設準備
- 多能工の養成
- マレイン酸タンク他定修
- 有機酸設備老朽化対応
- 新分析棟の建設準備

2025年度実績

- リンゴ酸設備、出荷棟4割進捗(9月末時点)
- 2026年1月完了予定
- 老朽化による建て替え(旧耐震基準建屋)
- デザイン案：2027年2月完成予定
- 上期に6名、リンゴ酸生産ラインからの一時的な異動
- マレイン酸タンク定修、ベンゼンタンク補修完了
- マレイン酸反応冷却用リボイラー更新完了
- コンディションベースでの修繕内容を精査し、優先度分けにて年度分散化を実施
- 新規保全システムを導入し、DX化を推進
- デザイン案：2025年7月詳細設計完了
- 2025年11月起工
- 2027年3月完工予定

IV. FFAビジネスの面拡大



2025年度計画

営業開発強化

- 新製品の採用数加速
- コート果実酸、米飯向け製剤
酸化防止製剤、褐変防止製剤
- 高純度有機酸 “アプリシャス”内製化完了による本格始動

グローバル展開

【中国】

- 日持ち向上剤、惣菜用途の採用増加
- 無リン保水剤、水産・畜肉用途の採用増加

【タイ】

- 日持ち向上剤、畜肉関連用途の採用増加
- 歩留り向上剤、ペットフード用途の数量増加

2025年度上期実績

FFA：食品添加物製剤、機能性食品素材・食品添加物、機能性果実酸

- コート果実酸：前期比物量1割増
- 米飯向け製剤：コメ不足の影響で物量大幅ダウン
- 2026年3月より本格稼働予定
2026年度販売目標：300MT

- FFA製品300社採用 物量5%減(イカ不漁)
- 惣菜用途で日持ち向上剤順調
- 水産・畜肉加工用途 リン酸フリー製剤好調



- FFA製品90社採用 物量5割増
- 改良により畜肉関連用途好調
- ペットフード用途 物量大幅UP



II. 事業の概要

電子材料および機能性化学品事業部

FUSO CHEMICAL

事業内容



ライフサイエンス事業



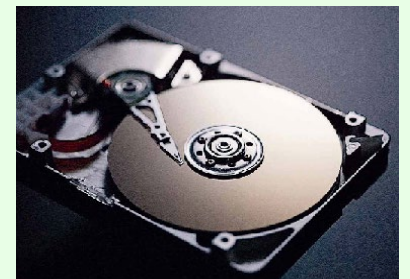
- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- フマル酸類
- ビタミンC類
- 食品添加物製剤類
- その他果実酸類
(コハク酸類、乳酸類、酒石酸類)
- 無水マレイン酸類
- 高純度有機酸



電子材料および 機能性化学品事業



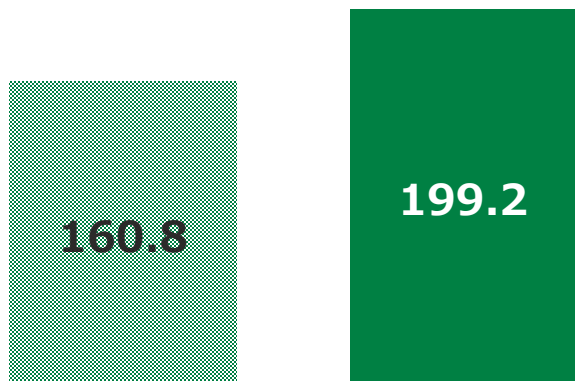
- 電子材料
 - ・ 超高純度コロイダルシリカ
- 機能性化学品
 - ・ 高純度オルガノシリカゾル
 - ・ シリカナノパウダー
 - ・ アルキルシリケート



電子材料および機能性化学品事業 上期概況



売上高



前期

当期

営業利益



前期

当期

売上高 増減要因

+	販売物量	前期比2割増（計画比6%増） 最先端半導体向け活況 データセンター（AI）向け続伸 中国国内の需要増
-	為替	円高による売上減

営業利益 増減要因

+	販売物量	売上増に伴う利益増
	稼働率向上	新規生産設備の高稼働
-	償却費	京都事業所の増強設備償却費増加
	為替	円高による利益減
	物流費	出荷数量増に伴う増加
	コスト増	水光熱費・人件費・資材費・研究開発費

I. 半導体市場需要回復への対応

- 最先端技術への対応、新規需要の取り込み
- 各顧客の実需予測に基づく生産・在庫・出荷調整

II. 新生産体制の早期確立

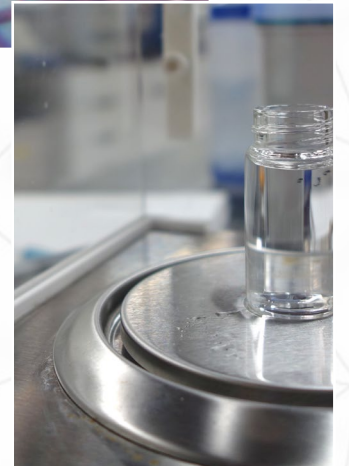
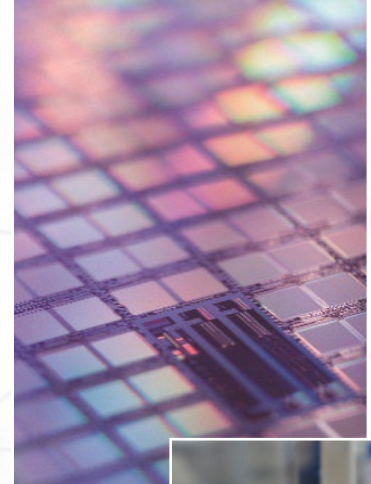
- 鹿島（Ⅰ期・Ⅱ期） 京都新ライン 稼働・認定
- 高濃度化及び高生産性製品の拡充

III. 外部環境変化への迅速・柔軟な対応

- コストアップの価格転嫁継続
- サプライチェーンリスクへの対応・米中半導体戦争

IV. 次世代製品開発

- 中空サブミクロンシリカの上市
- 新たな付加価値を生み出す次世代材料開発



I. 最先端技術への対応



2025年度計画

■ 品質向上への技術的取り組み

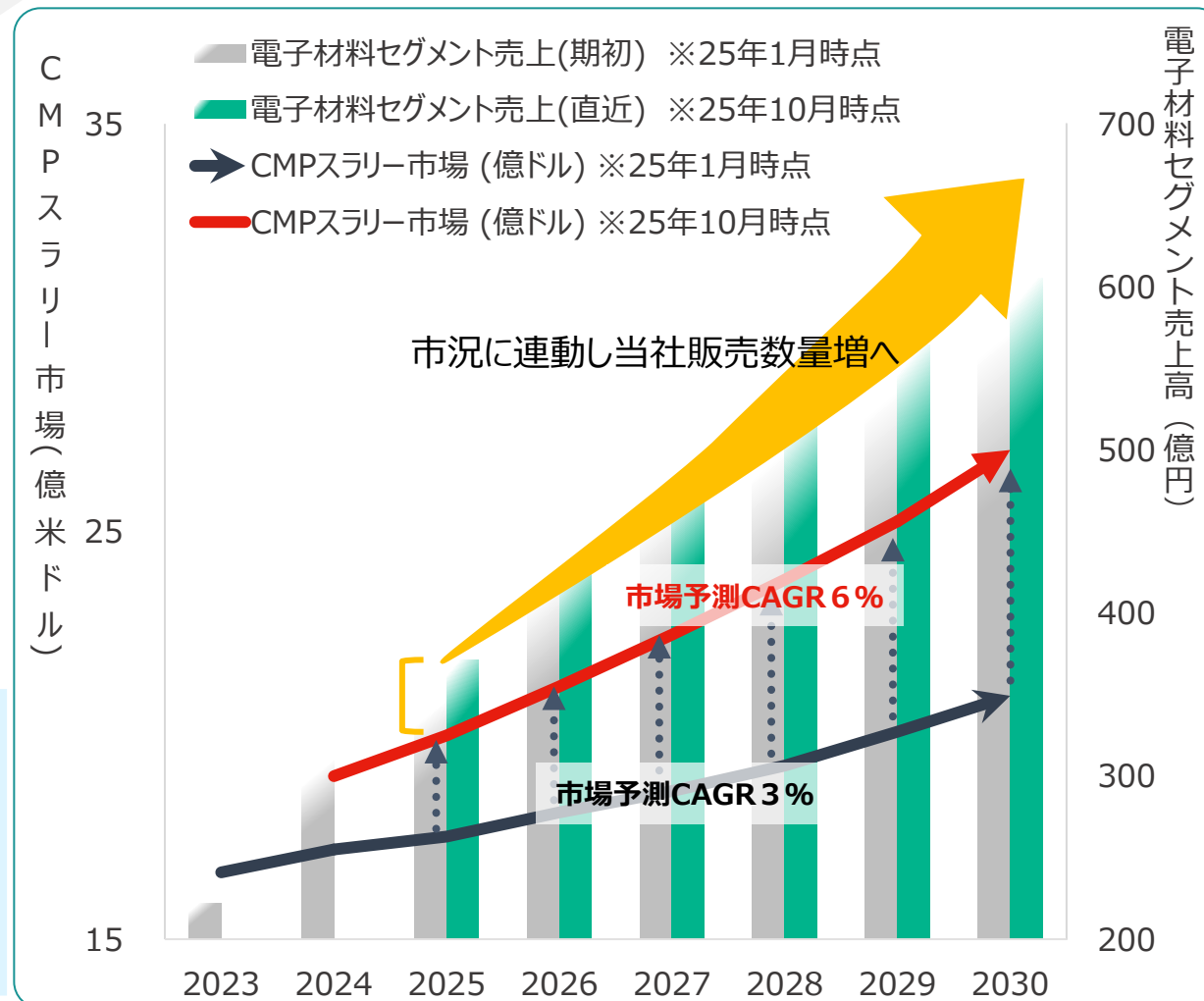
- ・ 粒度分布制御技術：
粗大粒子・微粒子を低減した製品ラインナップ拡充

- ・ 顧客評価：複数の顧客で進捗中
- ・ 拡充した製品の受注：今後増加見込み
- ・ A14向け要求事項確認

■ CMPスラリー市場／売上目標

- ・ 当初想定以上にAI市場が成長
- ・ 下期も半導体市場活況（AI市場関連が牽引）
- ・ 当初想定通り、今年度後半より2nm生産開始
- ・ 米中半導体摩擦の影響は限定的

2025年度上期実績



CMPスラリー市場予測：富士キメラ総研、富士経済を参照に当社作成

I. 新規需要の取り込み



2025年度計画

2025年度上期実績

■ AI半導体等によるプロセス構造変化に伴う新規需要の取り込み

- Advanced Packaging
- BSPDN
(Back-Side Power Delivery Network)

■ 中国市場への取り組み

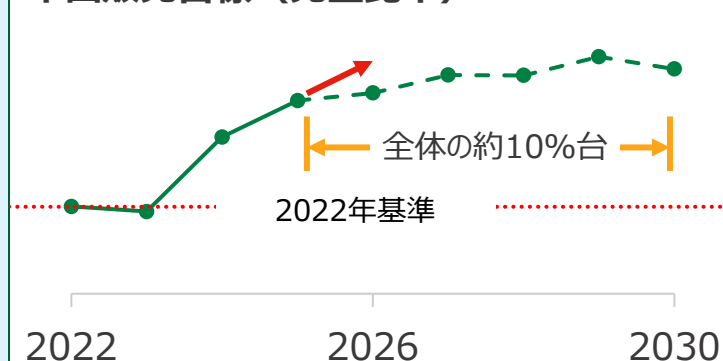
- コロイダルシリカ継続販売
- 優良CMPスラリーメーカー向け販売拡大
- 中国半導体市場の動向を注視

- Advanced Packaging 関連において
当社砥粒の必要性確認

- ウエハバックサイド研磨、Ru・Moなど新規導半体研磨、
Beyond 2nm 向け：開発継続
- 砥粒残渣レス、凹凸制御、研磨力向上砥粒：効果検証中

- 既存顧客へ計画以上の販売物量
- 25-26年度10%を越える見込み
- 高品質品の需要増

中国販売目標（売上比率）



I. 各顧客の実需予測に基づく生産・在庫・出荷調整



2025年度計画

■ 各顧客の実需予測

- 2025年度は2024年度を上回る需要
- 2030年度まで需要拡大見込み
- 2027～28年度にAI需要の伸びが鈍化

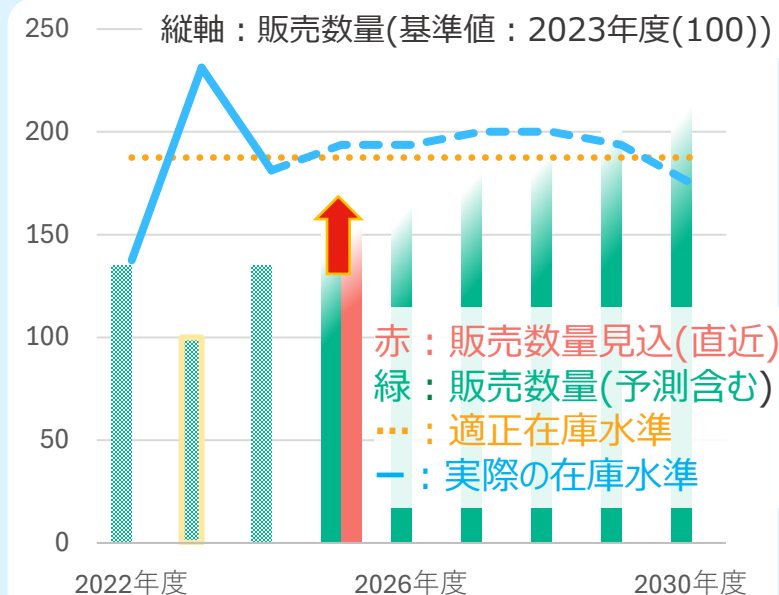
■ 次期投資費用

- 需要予測に伴う、各社需要量確定
- 生産量・次期投資判断（規模・時期）
- 費用按分・負担額確定
- 顧客との合意形成を開始

- 各社需要予測が出揃う
CAGR:8～10%(24-30年度)
- 生産量・次期投資検討開始
- 費用按分・負担額 交渉継続中
- 顧客との長期信頼関係構築中

2025年度上期実績

- 好調なAI需要に牽引され、先端半導体の生産量増加、顧客使用量、及び在庫数量の増加による販売数量増加
- 2025年度 販売数量増加するも、新ライン稼働率UP、次年度以降の在庫水準確保。※今後の見通しは認定時期により変動
- トランプ政策の不安も薄れ、2030年度まで需要拡大見込
- AI需要・CMP適用プロセス継続増加、微細化が牽引の可能性大



Ⅱ. 鹿島（Ⅰ期・Ⅱ期） 京都新ライン 稼働・認定



2025年度計画

2025年度上期実績

増設	2023		2024		2025		2026	
	1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H
鹿島Ⅰ期	★	認証～試作品						
					量産体制			
	・ 2024年度末 フル稼働 ・ 2025年度 フル稼働継続							
鹿島Ⅱ期					★			
	・ 2025年7月完工 ・ 4Qより試作品。早期認定完了							
京都 新ライン				★				
					←			
	・ 早期認定完了 ・ 2026年度量産稼働予定							

- 2024年度末よりフル稼働継続
- 稼働率向上により利益増に貢献

- Ⅱ期の完工7月予定→8月完工、9月竣工式実施
- 早期認定に向けた活動開始。3Qに試作予定
- 減価償却は2025年度下期より開始

- 好調な販売を受けて顧客認定が当初より早期に進捗
- 2025年度末に顧客認定完了予定
- 2026年度上期にはフル稼働を目指す

Ⅱ. 高濃度化及び高生産性製品の拡充



2025年度計画

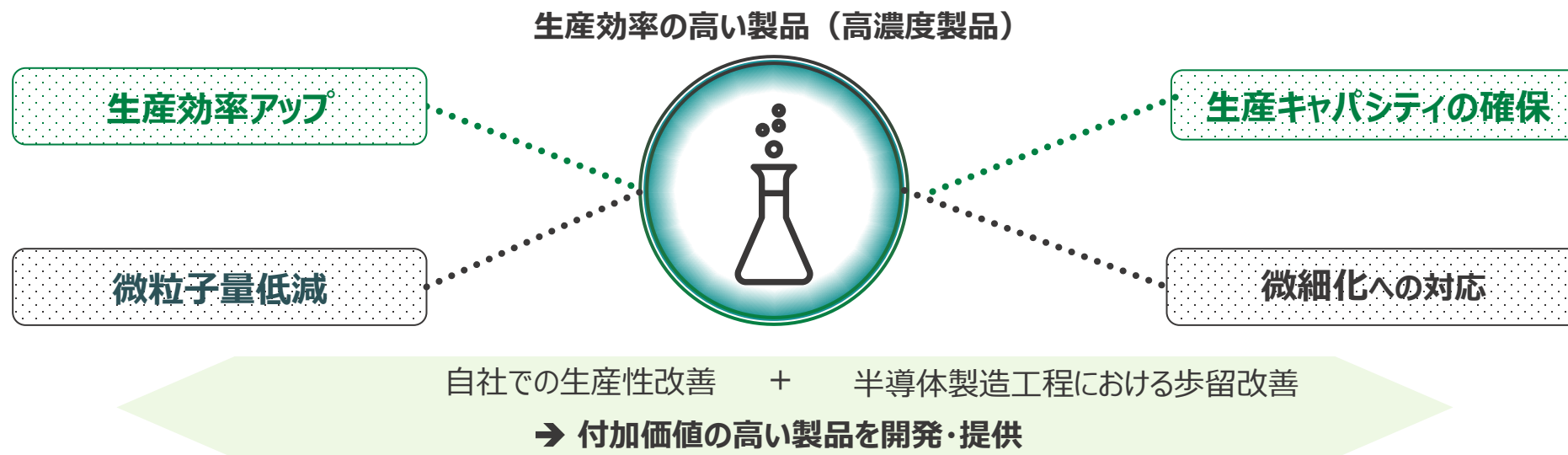
2025年度上期実績

■ 効率性への挑戦

- 高濃度/高生産性品目 製品のラインナップ拡充

→ 従来比約**1.5倍**の効率化を達成
顧客提案開始

- ラインナップ拡充を継続
- 顧客認定継続
- 2030年度までに高濃度・高生産性品目の比率：
1.5倍以上となる見込み



Ⅲ. 外部環境変化への迅速・柔軟な対応



2025年度計画

2025年度上期実績

1

コストアップの価格転嫁継続

- 大幅なコストアップダウンがなく、価格維持
- 人件費、エネルギー、原材料費のコスト増は効率化で対応
- 稼働・生産効率アップにより値上げ回避

2

サプライチェーンリスクへの対応

- 金属ケイ素購入国の分散
- マレーシア・ブラジルからのテスト購入実施
- 主要サプライヤーとの関係強化

3

米中半導体摩擦・米相互関税

- 相互関税の直接影響はなし
- 半導体製品の輸出入規制による直接的な影響もなし
- 一方、中国市場向けコロイダルシリカ販売は計画以上

IV. 次世代製品開発



□ CMP

A16/A14世代向け要求事項に対応したサンプルワーク開始

- 認定活動
- サンプルワーク継続

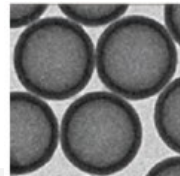
□ 新規用途材料

サンプルワーク継続

- 複数社からの引き合い獲得
- 用途探索継続

□ 中空サブミクロンシリカ ミラリカ™ / Miralica™

低誘電材用途向けを中心に
複数社サンプルワーク継続



- 26年度量産化に向け
製造ライン構築へ

新規
用途・顧客
獲得

次世代
材料開発

展示会

ケミカルマテリアルJapan 2025
nano tech 2026
出展予定

□ CMP

最先端品、高レート・高生産性

- A14、
Advanced Packagingを
視野に入れた開発

□ 新規材料開発

- 高純度オルガノゾル
- 多孔質シリカ
- シリカナノシート
- FDC™法※によるシリカコート材料

※FUSO Dispersible Coat :
FUSO独自の粒子コート技術

- 特許出願実施

Ⅲ. 2026年3月期 業績予想

FUSO CHEMICAL

業績予想



2026年3月期計画

2025年
3月期

(単位：億円)

売上高

修正計画 (10月開示)	期初計画 (5月開示)	実績
755	727	695

営業利益

175	140	162
-----	-----	-----

当期純利益

122	94	116
-----	----	-----

償却前営業利益

284	255	245
-----	-----	-----

前提

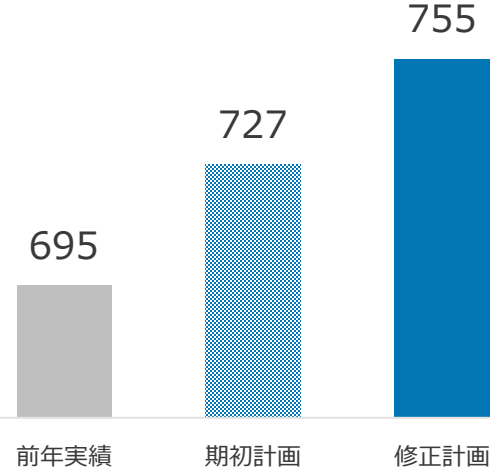
年間為替 レート	145円	140円	152円
ベンゼン価格	前年比 2割安	前年比 1割程度安	996 \$ / t (年間平均)
製造コスト	減価償却費 増加	減価償却費 増加	水光熱費の 高騰
その他	AIが牽引	半導体市況 回復	半導体市況 緩やかな回復

(※)ENEOS
ACP価格参照

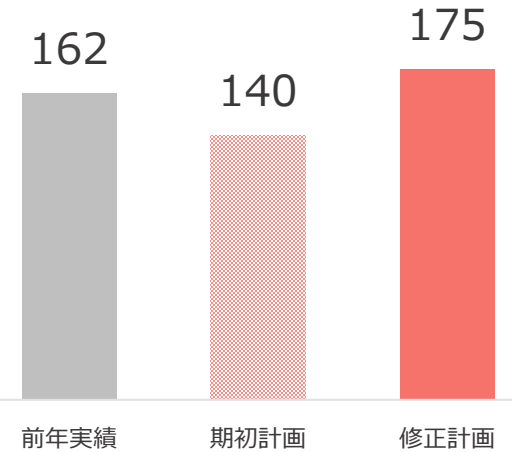
【ご参考】為替感応度
(2025年3月期)

売上高 : 1.8億円
営業利益 : 6千万円

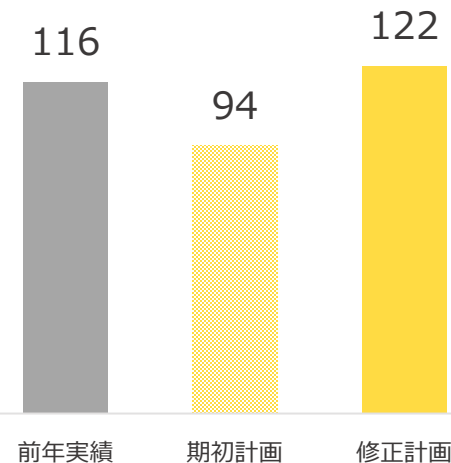
売上高



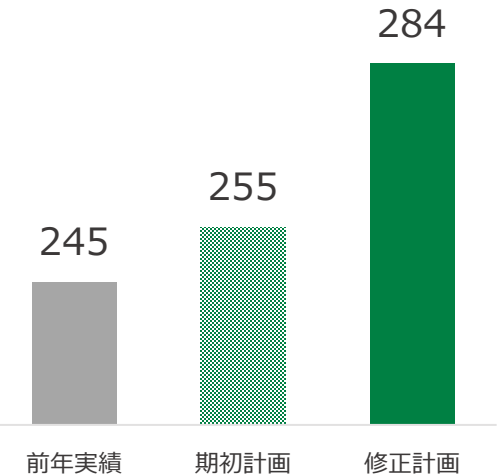
営業利益



当期純利益



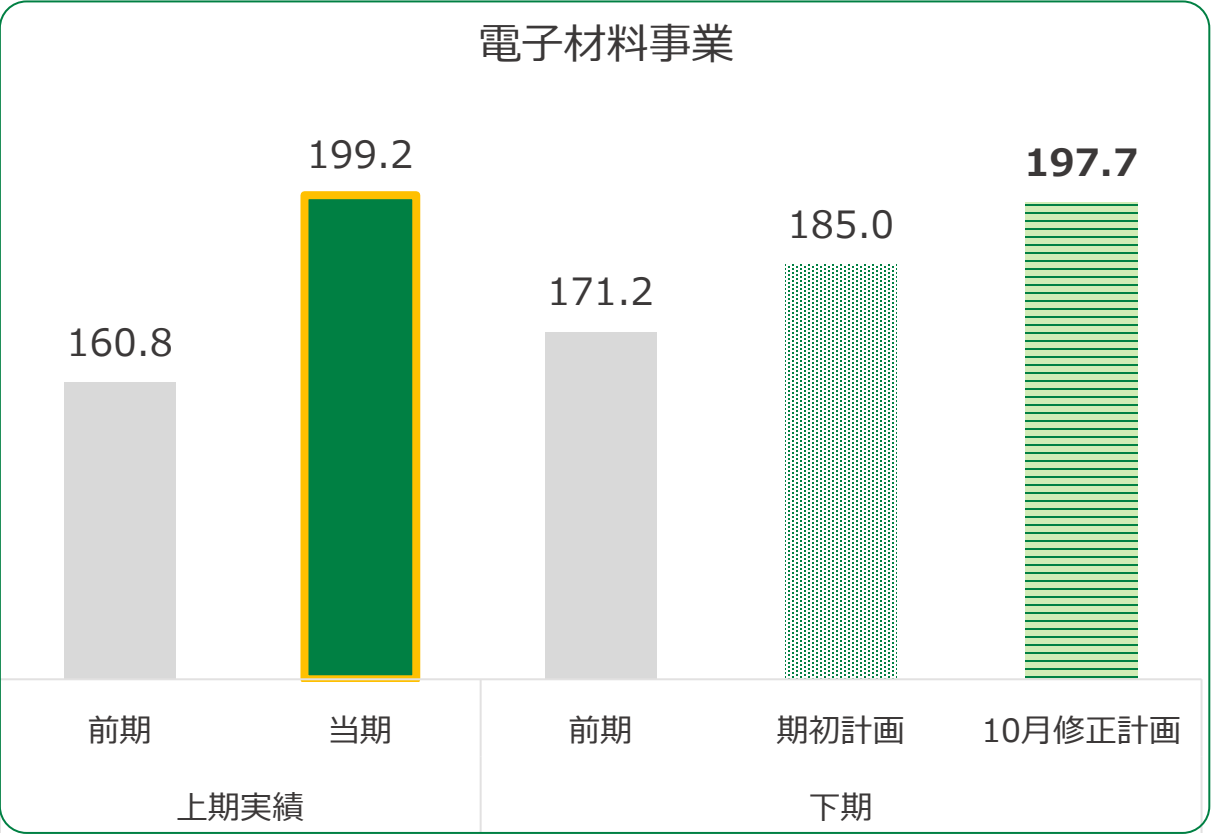
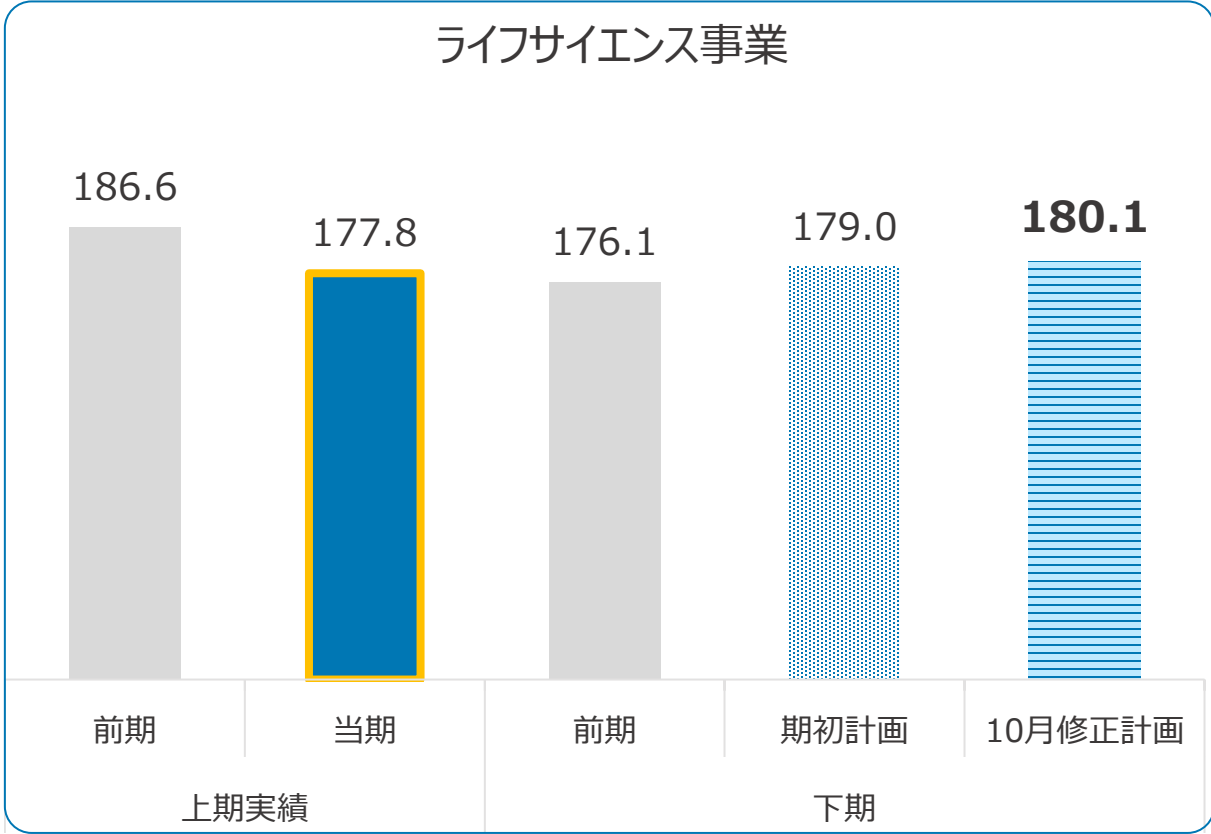
償却前営業利益



セグメント別業績予想【売上高】



	2025年3月期		2026年3月期		下期計画				通期計画			
売上高	上期	下期	上期実績	前年同期比	期初	前年同期比	10月修正	前年同期比	期初	前年同期比	10月修正	前年同期比
ライフサイエンス事業	186.6	176.1	177.8	△4.7%	179.0	+1.6%	180.1	+2.3%	358.5	△1.2%	358.0	△1.3%
電子材料および 機能性化学品事業	160.8	171.2	199.2	+23.8%	185.0	+8.0%	197.7	+15.5%	368.5	+10.9%	397.0	+19.5%

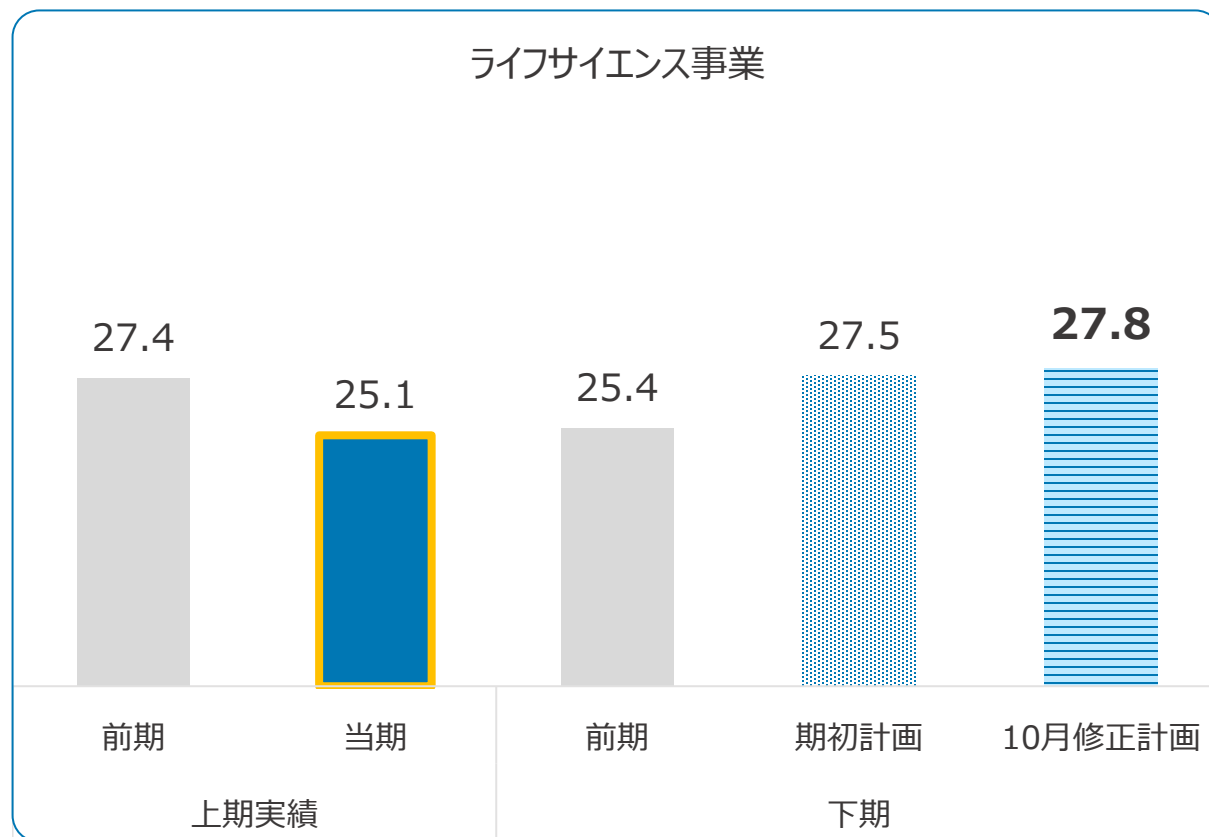


セグメント別業績予想【営業利益】

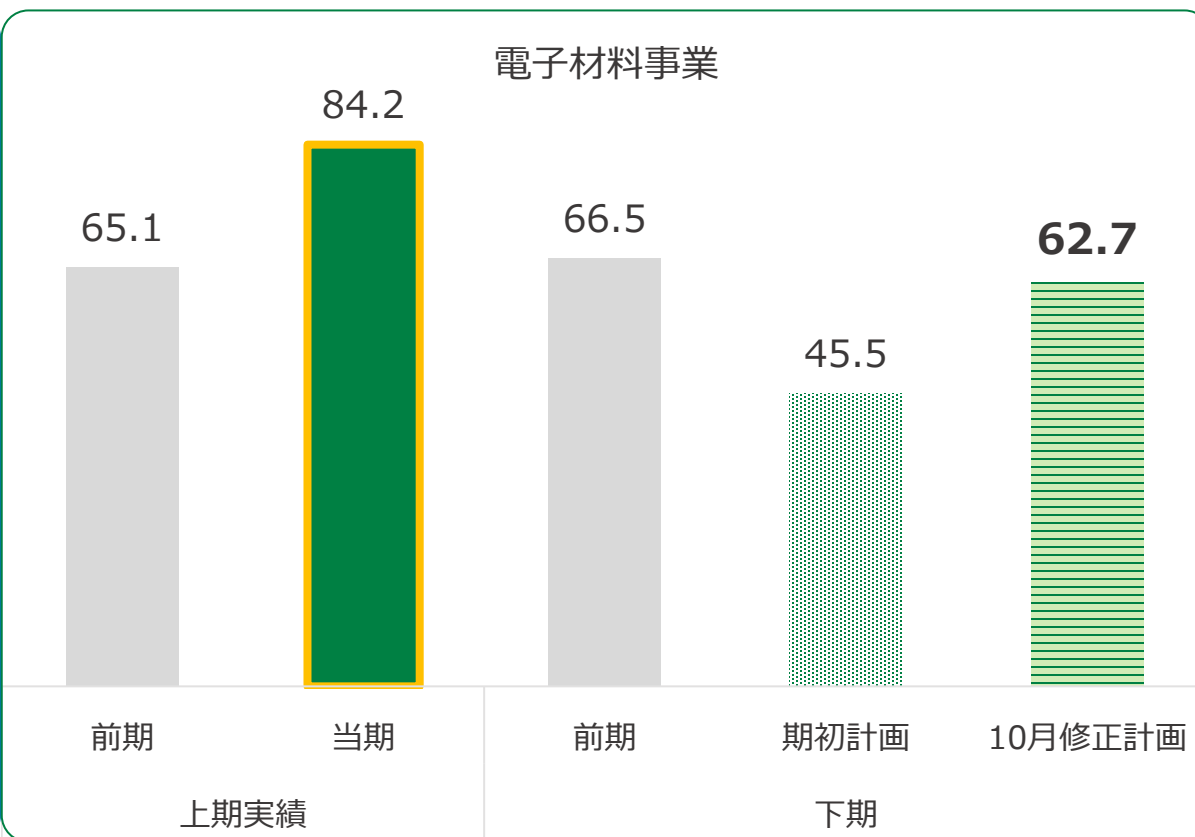


	2025年3月期		2026年3月期		下期計画				通期計画			
営業利益	上期	下期	上期実績	前年同期比	期初	前年同期比	10月修正	前年同期比	期初	前年同期比	10月修正	前年同期比
ライフサイエンス事業	27.4	25.4	25.1	△8.2%	27.5	+7.9%	27.8	+9.2%	54.0	+2.1%	53.0	+0.2%
電子材料および 機能性化学品事業	65.1	66.5	84.2	+29.3%	45.5	△31.6%	62.7	△5.7%	111.0	△15.7%	147.0	+11.6%

ライフサイエンス事業



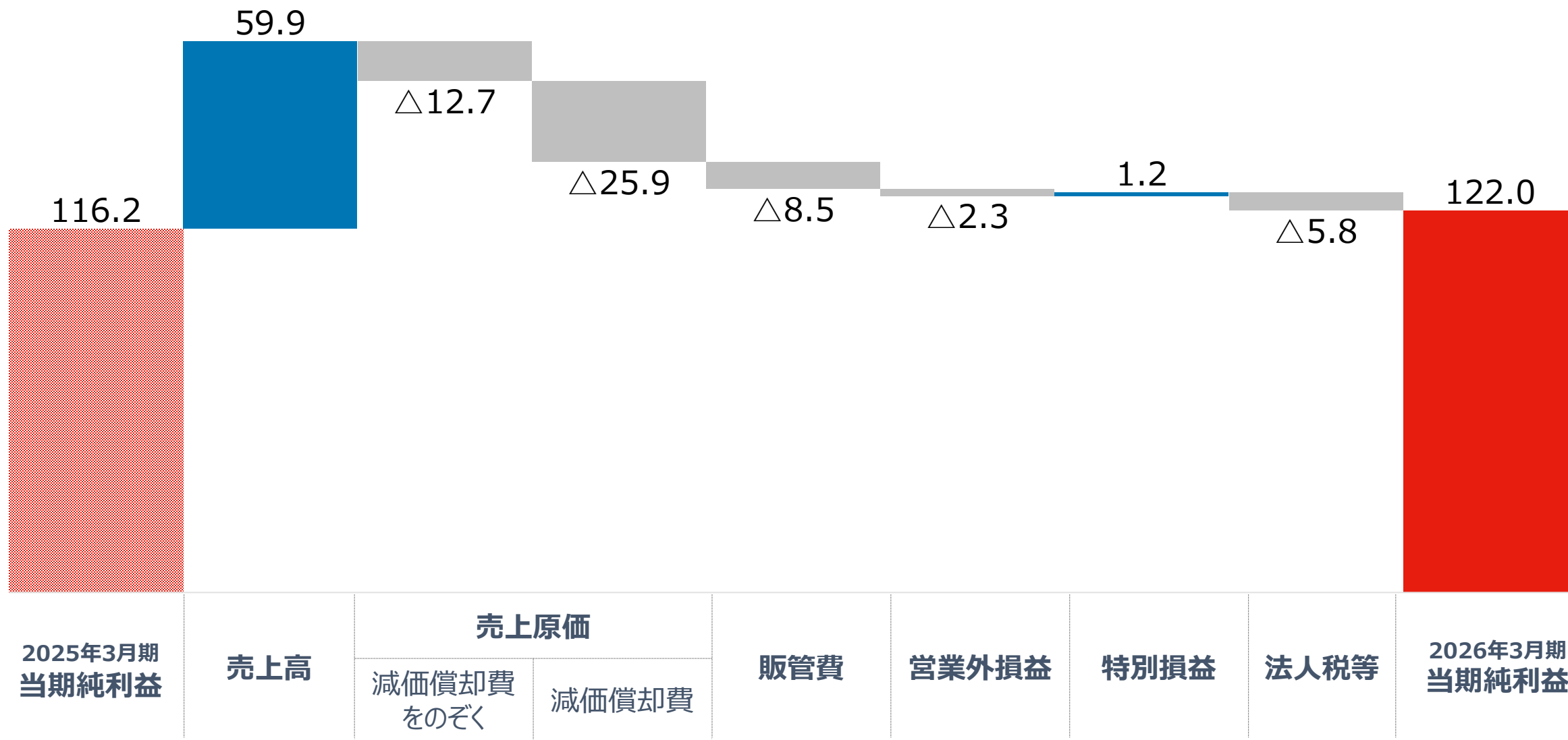
電子材料事業



2026年3月期計画 当期純利益増減要因



(単位：億円)

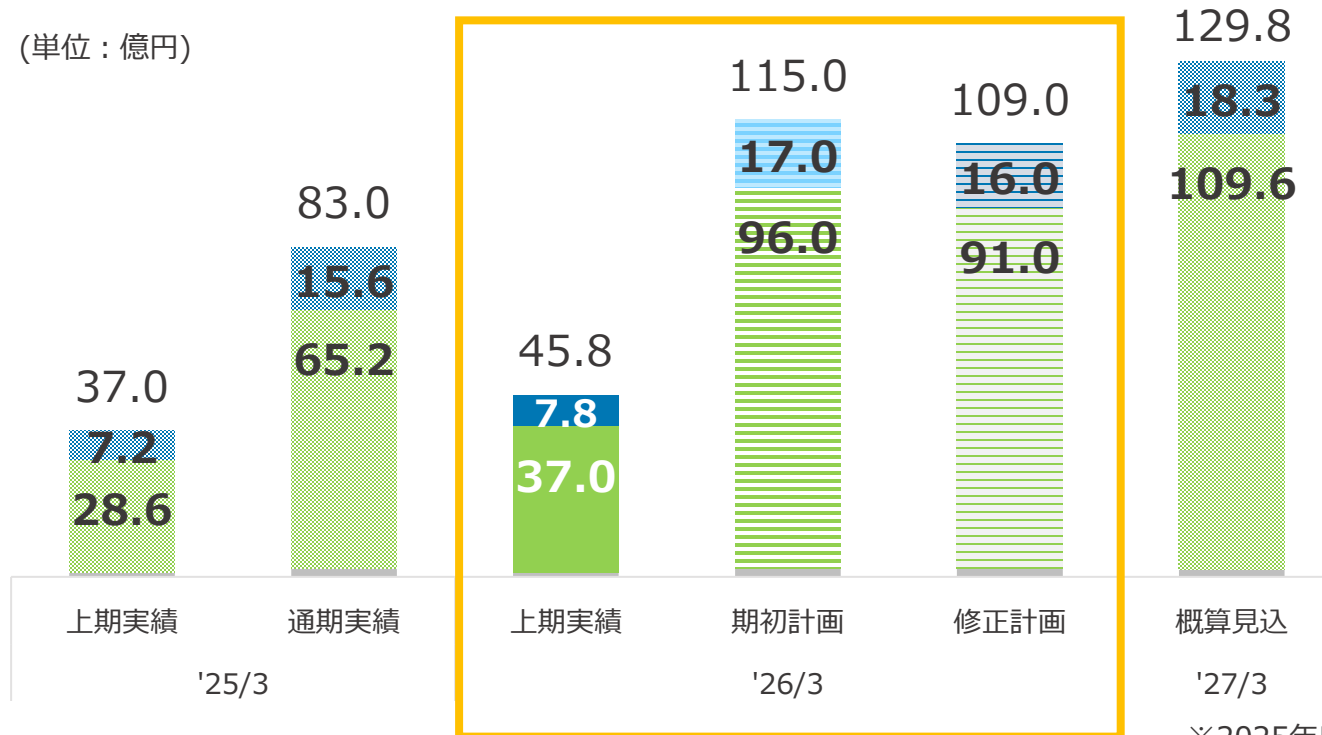


減価償却費見込み



(単位:億円)	'25/3		'26/3			'27/3 概算見込
	上期実績	通期実績	上期実績	期初計画	修正計画	
ライフサイエンス	7.2	15.6	7.8	17.0	16.0	18.3
電子材料	28.6	65.2	36.9	96.0	91.0	109.6
共通	1.0	2.1	1.0	2.0	2.0	1.9
合計	37.0	83.0	45.8	115.0	109.0	129.8

(単位：億円)



※2025年5月公表

2025年3月期

- ・ 鹿島事業所新事務所棟
- ・ 京都事業所
超高純度コロイダルシリカ新設備
(2025年1月より償却開始)

2026年3月期

- ・ 大阪工場耐震工事
(2025年8月～2026年1月予定)
- ・ 鹿島事業所
超高純度コロイダルシリカ新設備【第Ⅱ期】
9月竣工 (12月より償却開始予定)

中期経営計画 FUSO VISION 2025 進捗状況



経営目標
2021年5月時点

業績の進捗状況を踏まえ、
新たに中期経営目標を設定

2024年度実績
2025年3月

2025年度計画
2026年3月

経営目標
2023年5月修正

売上高 580 億円

営業利益 140 億円

償却前営業利益 200 億円

売上高 695

営業利益 162

償却前営業利益 245

期初

727

修正

755

850

億円

140

175

190

億円

255

284

300

億円

2021年度～2025年度 中期計画（当初）

- 売上高 3割アップ[○] (2020年度比)
- 営業利益率 20%以上 確保
- 海外売上高比率 50%

修正計画
成長軌道

当初計画
成長軌道

初年度
2021年度

2022年度

2023年度

2024年度

最終年度
2025年度

当社換算レート
(1\$ = 円)

107円(策定当初)

112円

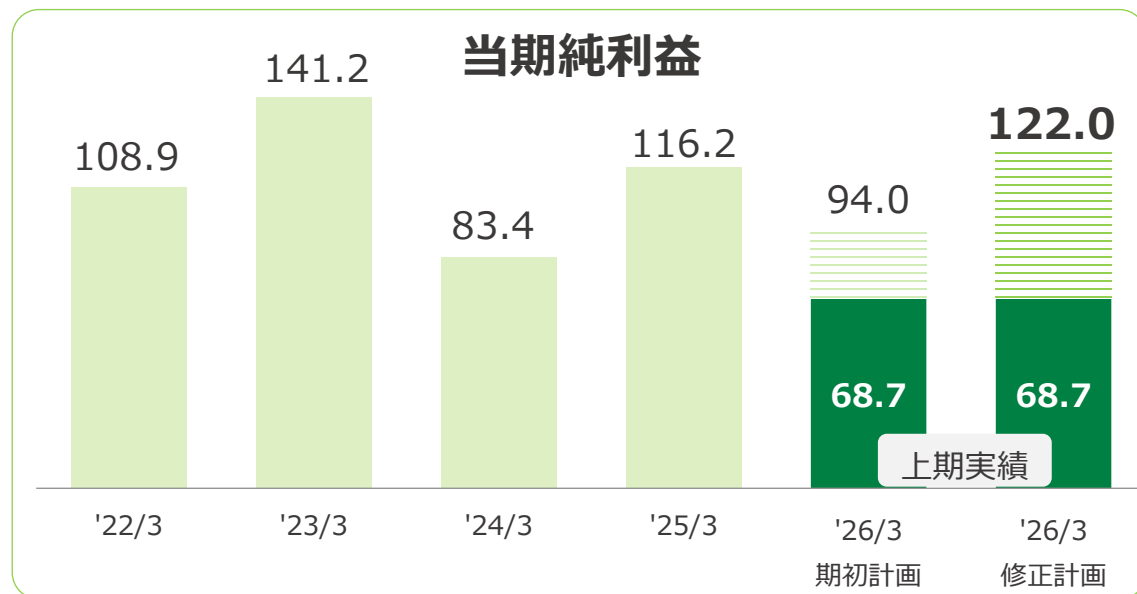
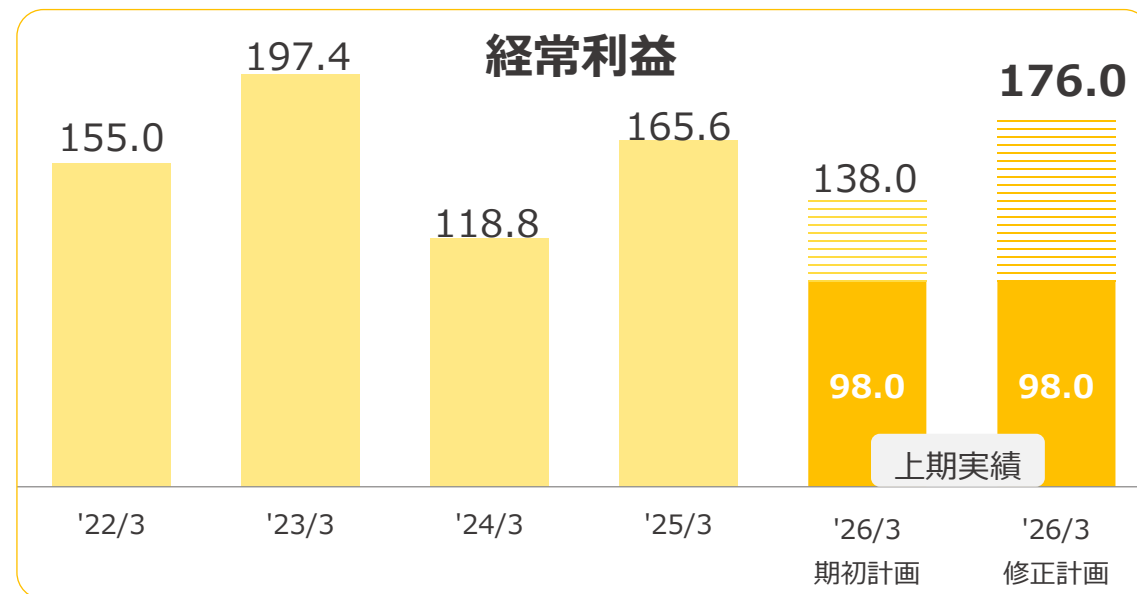
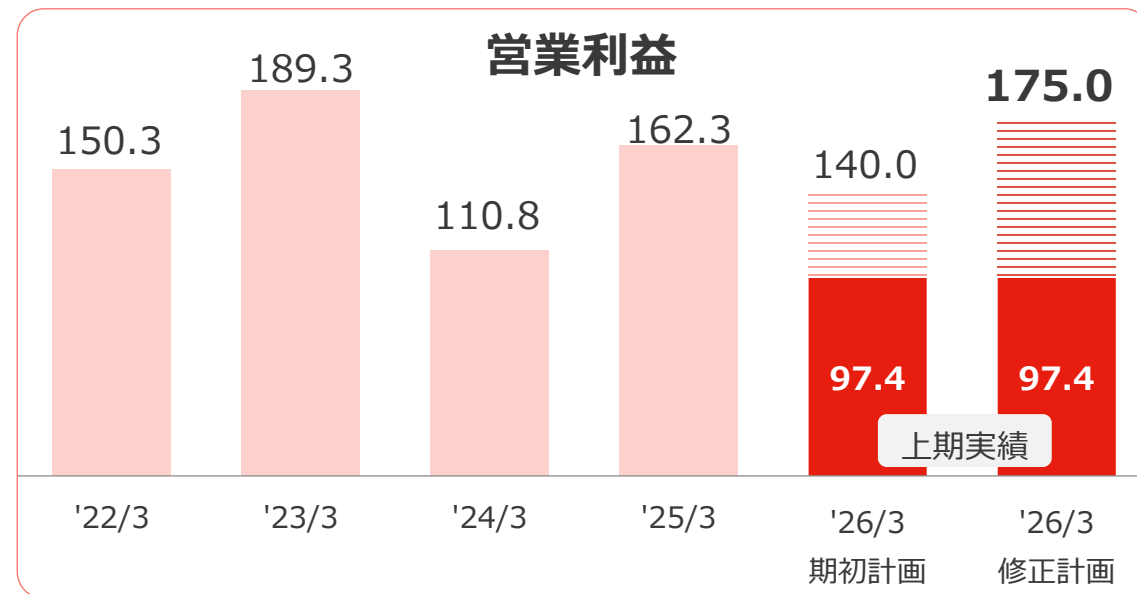
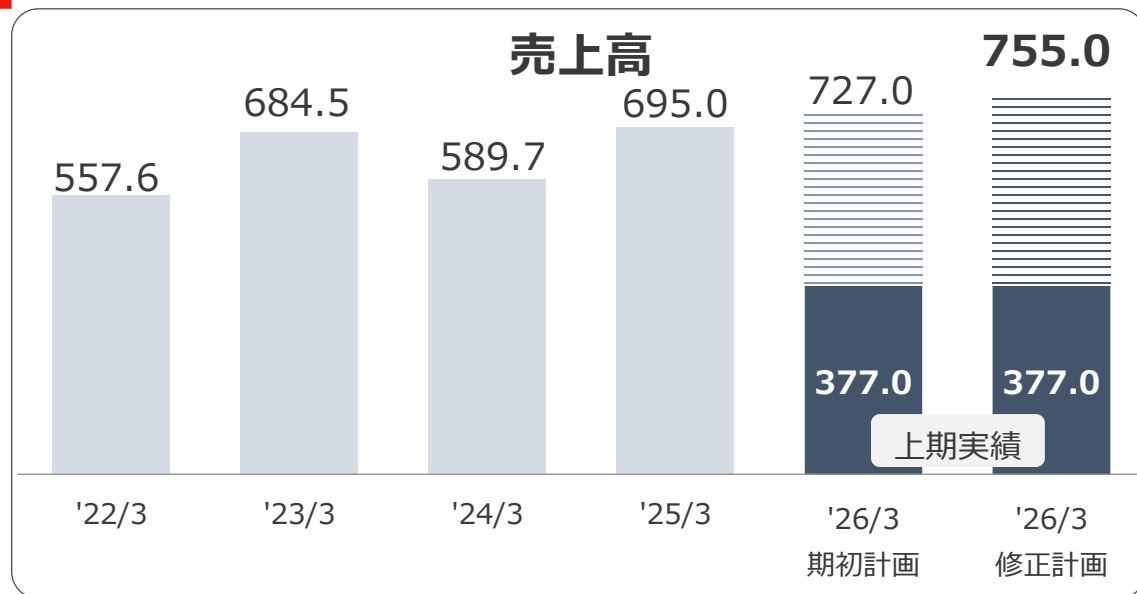
135円

152円

140円

145円

業績推移および予想

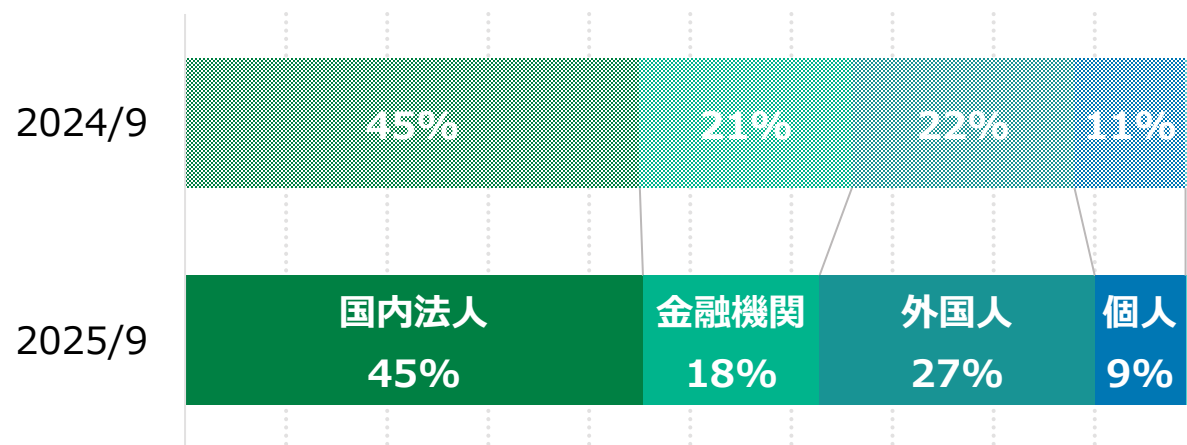


(単位:億円)

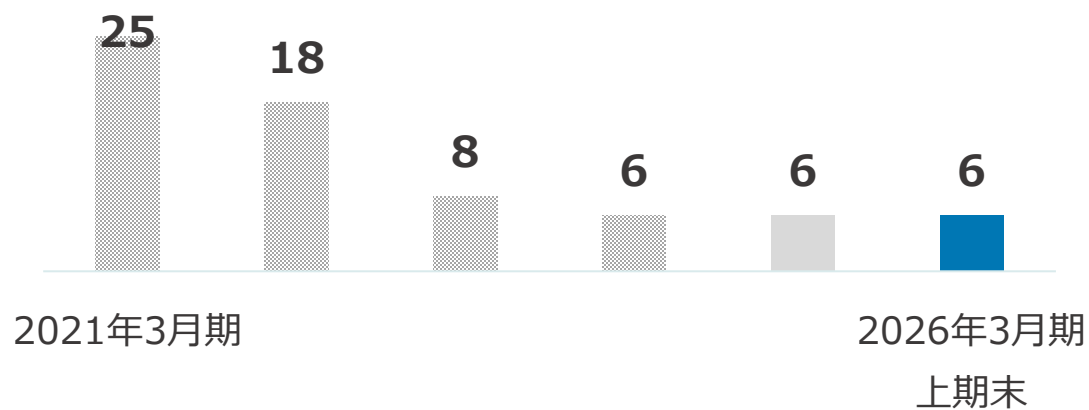
株式情報



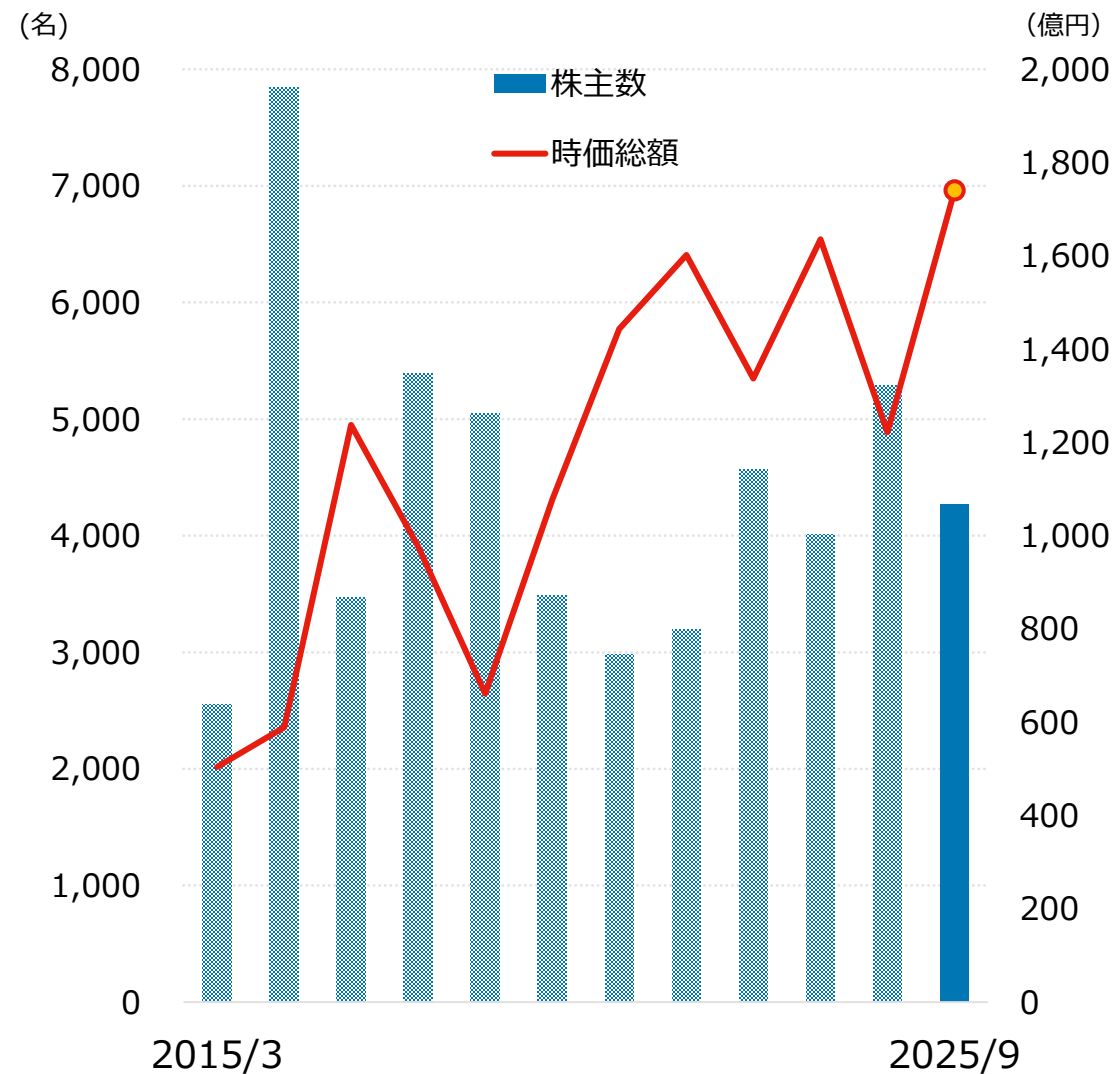
株主構成



政策保有株式数(上場株式)



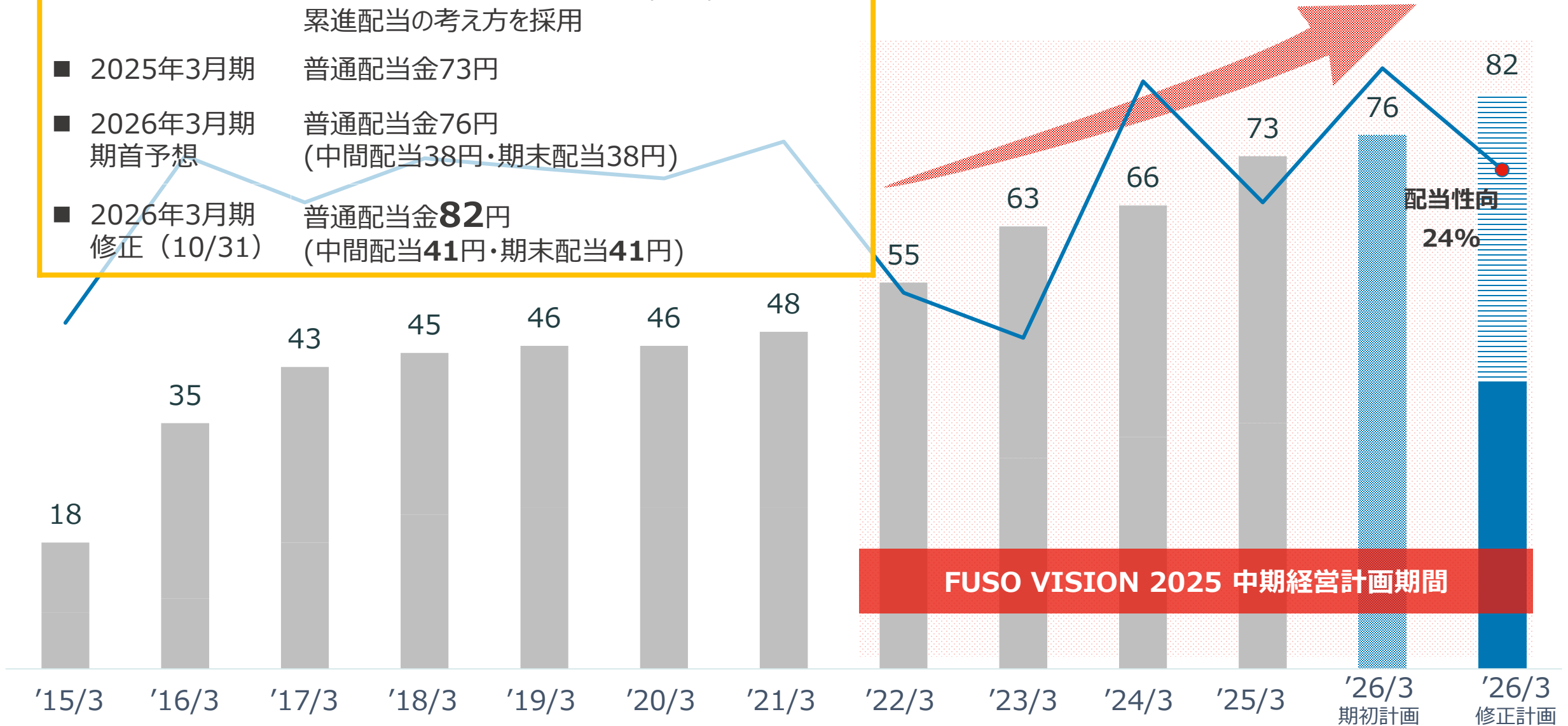
時価総額・株主数



株主還元



- 株主還元方針 長期にわたり安定的に株主の皆様へ報いるため、累進配当の考え方を採用
- 2025年3月期 普通配当金73円
- 2026年3月期
期首予想 普通配当金76円
(中間配当38円・期末配当38円)
- 2026年3月期
修正 (10/31) 普通配当金**82円**
(中間配当**41円**・期末配当**41円**)



IV. Q & A

FUSO CHEMICAL

本資料に記載されている、将来の見通しに関する記述・数値は、グループ各社の現時点での入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確定な要因も含まれており、その達成を当社として約束するものではありません。

また、実際の業績等は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。

Chemicals for Human Life
FUSO



FUSO CHEMICAL